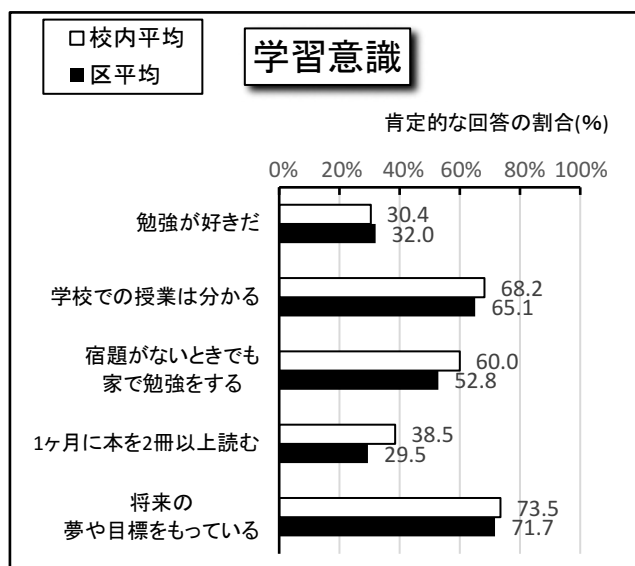
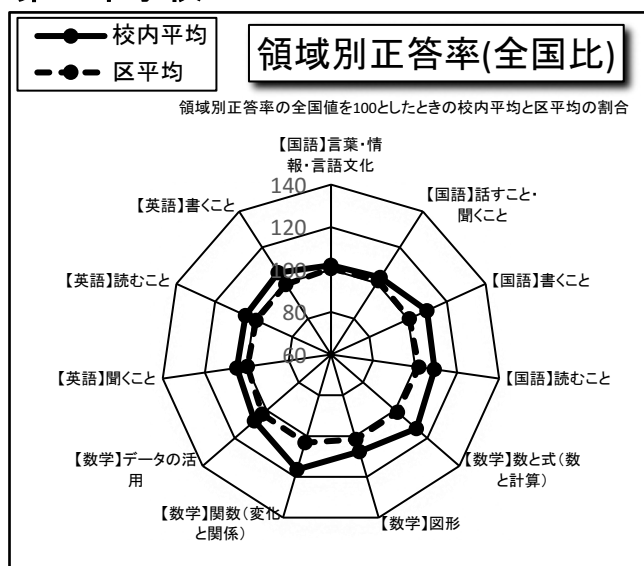


各校の調査結果概要と 学力向上への取り組み

中学校

第一	1	栗島	19
第四	2	江南	20
第五	3	江北桜	21
第六	4	鹿浜菜の花	22
第七	5	新田	23
第九	6	千寿青葉	24
第十	7	千寿桜堤	25
第十一	8	竹の塚	26
第十二	9	西新井	27
第十三	10	花畑	28
第十四	11	花畑北	29
青井	12	花保	30
伊興	13	東綾瀬	31
入谷	14	東島根	32
入谷南	15	渕江	33
扇	16	谷中	34
加賀	17	六月	35
蒲原	18		

第一中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	72.8	71.4	71.4	75.3	86.3	95.9	80.8	63.3	60.8	59.0	69.9	65.1
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	73.7	71.5	76.2	80.3	79.5	90.6	82.4	72.9	61.2	58.9	60.7	71.0
平均正答率(R7)	71.9	64.3	67.2	67.8	73.4	93.5	76.5	58.2	59.3	68.8	64.0	64.0
平均正答率(R6)	70.5	60.1	71.1	66.7	73.7	91.4	73.9	56.6	59.4	72.2	45.7	65.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語科については、1年生の平均正答率は足立区、全国平均をそれぞれ、2.5ポイント、3.2ポイント上回っている。「書くこと」「読むこと」に各層の開きがあり課題が見られる。2年生の平均正答率は足立区、全国平均をそれぞれ、2.2ポイント、3.1ポイント上回っている。「書くこと」に各層の開きがあり課題が見られる。

数学科については、1年生では、「図形」「データの活用」にD層のみ大きな開きがある。2年生では、すべての領域で各層に大きな開きがある。3年生では、「関数」において上位層と下位層で二極化している。基礎内容でも各層に開きがある。

英語科については、1年生の平均正答率は足立区、全国平均をそれぞれ、3.8ポイント、3.2ポイント上回っている。「聞くこと」に習熟の差があるが、「読むこと」「書くこと」については差が見られない。2年生の平均正答率は足立区、全国平均をそれぞれ、2.0ポイント、1.6ポイント上回っている。「読むこと」「書くこと」に各層に大きな開きがある。3年生でも2年生と同様の傾向がみられる。

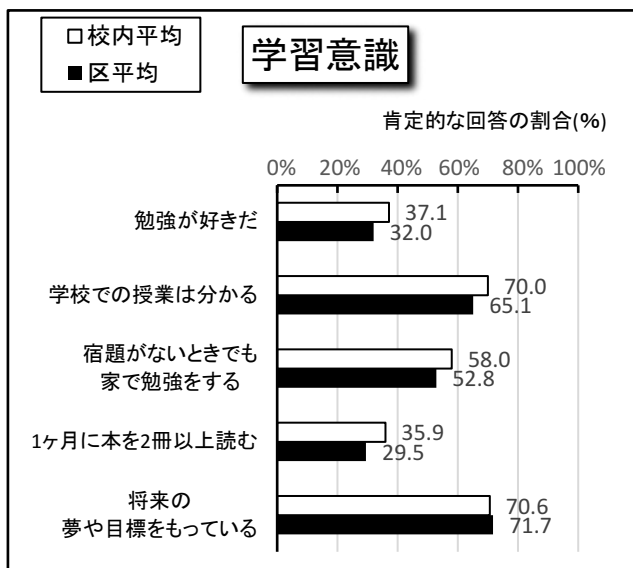
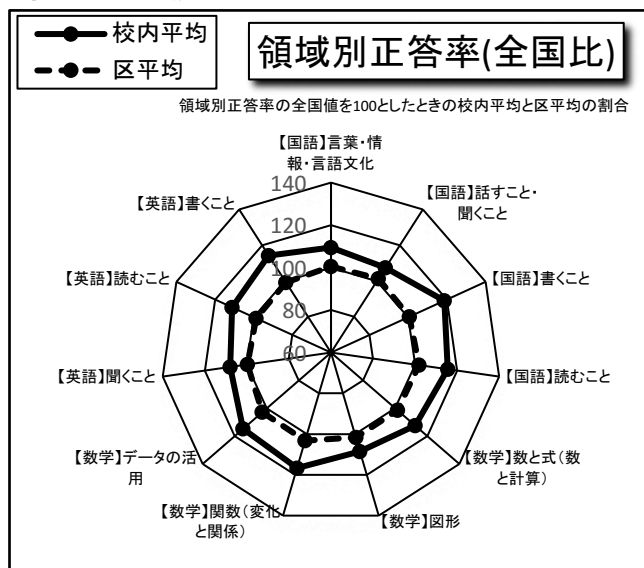
学校による学力向上への主な取り組み

国語科では、小テスト(復習テスト、漢字、文法など)による反復学習を取り入れ、家庭学習を定着させる。「読む力」を育むために、文章を読む機会や自身の意見や考えをまとめる機会を充実させる。「書く力」の向上についてはICTを用いて、まずは自身の意見を思考する機会を充実させる。自身の意見を確立させ、意見の書き方、さまざまな問いにおいて自分ならどうするかを重点的に考える。そのうえで200字作文などを用いて「書く力」を向上させる。

数学科では、習熟度別の少人数教室を活かし計算力の向上など細やかな指導を行う。AIドリルなどを活用して家庭学習に取り組ませる。習熟度に合わせてドリル学習により効果のある家庭学習の取り組みを行う。

英語科では、1年生では、文字を音声化できないことで、英文を読むことに対して苦手意識があるため、音読練習や読解問題に取り組んでいく。2、3年生では、教科書指導において、英問英答の問題への取り組みや短い英文を読むことの練習を繰り返し、読むことに慣れていく。正しい文法を用いて、自己表現ができるように継続的に練習を重ねていく。

第四中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	82.7	74.3	81.6	86.5	82.0	94.5	93.5	75.5	74.6	67.6	64.6	74.6
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	87.5	84.7	84.4	88.6	86.1	92.3	90.7	85.9	72.4	82.3	81.6	88.6
平均正答率(R7)	75.4	66.3	74.8	72.3	71.8	92.2	82.7	64.8	67.4	71.4	60.9	70.3
平均正答率(R6)	76.3	66.5	76.6	72.7	77.0	92.1	77.2	60.7	66.0	79.5	59.0	77.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

各教科の平均正答率は、現3年生が英語で4.3ポイント、「読むこと」の領域で17.5ポイント上昇した。現2年生は国語が10.0ポイント、「話すこと・聞くこと」の領域で13.9ポイント上昇した。応用問題についての平均正答率も各学年・教科とも区の平均を上回った。

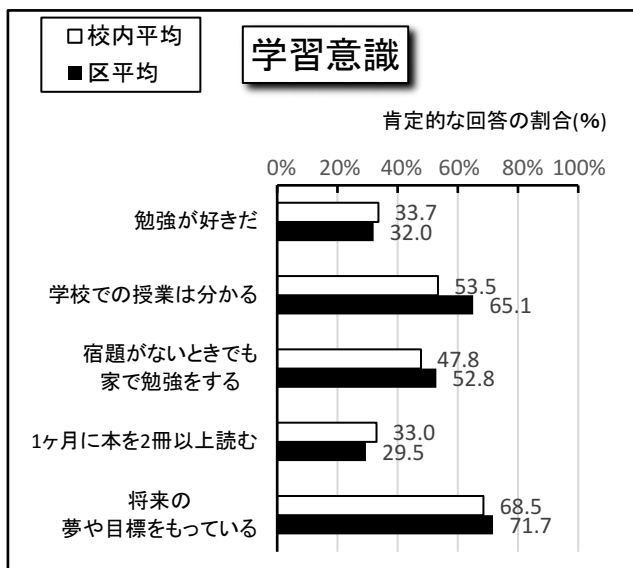
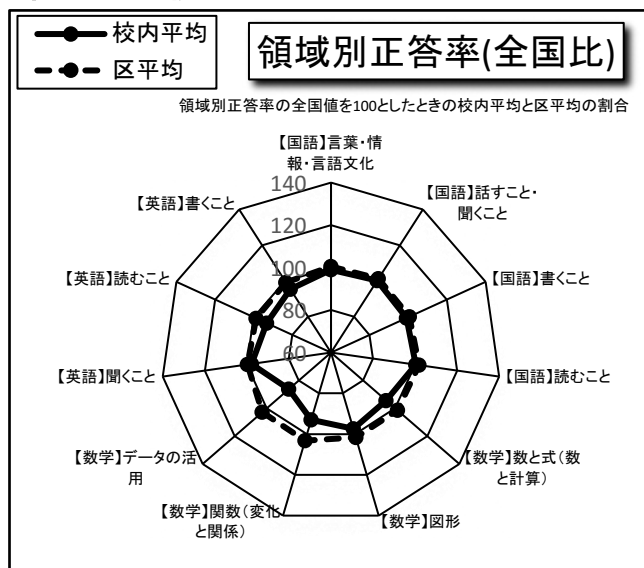
授業をはじめとする、基礎・基本を押さえた学習指導やペアワークやグループワークなどを行う、探究型学習を重視した教育活動など、毎日の実践が確かな学力の定着につながり、発展的な学びに向かう姿勢を育てていると考える。A Iドリルの有効活用などにより、各層に適した個別最適化した学習活動を継続し、全教科80%以上の通過率を目標とする。

意識に関する調査では、どの学年も8割以上の生徒が「学校の授業は楽しい」と回答し、「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ」「授業のはじめに示された目標(めあて・ねらい)を理解し、見通しをもって学習に取り組んでいる」「グループ活動やペア活動では、自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合ったりすることができている」の項目で区の平均に対し、肯定的な回答の割合が高い。

学校による学力向上への主な取り組み

○探究型学習を重視した授業の工夫:思考力・判断力・表現力等の向上を図るため、グループワークなど学習形態を工夫する。○学習ウィーク:5教科の朝学習の内容を反映した確認テストを土曜授業の際に行う。不合格者はテスト翌週、補充教室に参加し、再テスト合格まで取り組む。○朝学習:A Iドリルを活用した学習や読書に取り組む。○定期考査前補充教室:定期考査前の放課後、質問教室や補習を開催し、個別学習を支援する。○サマースクール:夏季休業中、本校教員を中心に7日間のコース別補充教室を行う。同時に自習教室を開設し、個別に学習できる環境を提供する。○スタディプラス:月1回程度、思考力や判断力を活用させる課題を実施している。基礎と応用の2種類の問題を用意し、自由な形式で答えを導く。○各種検定試験の実施:年間を通して、英語・数学・漢字の各種検定を本校を準会場として実施する。○各教科の勉強法のアドバイス:授業の受け方や予習復習など家庭学習に取り組むための要点を2年生が1年生にアドバイスする取り組みを実施する。○論理的思考力の向上:「論理的な思考を進めるための発言ルール・スキル」を教室掲示し、意識して学習に取り組む。

第五中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	65.6	52.5	63.3	66.7	49.2	85.7	78.5	59.1	58.5	48.1	48.1	42.3
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	64.2	60.6	56.9	77.3	71.2	77.3	67.9	66.0	39.6	50.0	47.3	51.3
平均正答率(R7)	67.8	54.8	63.3	63.0	55.0	88.6	74.3	56.1	57.3	65.3	53.0	51.6
平均正答率(R6)	66.2	53.6	60.7	64.2	68.4	86.5	67.3	51.2	49.6	67.1	41.2	54.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

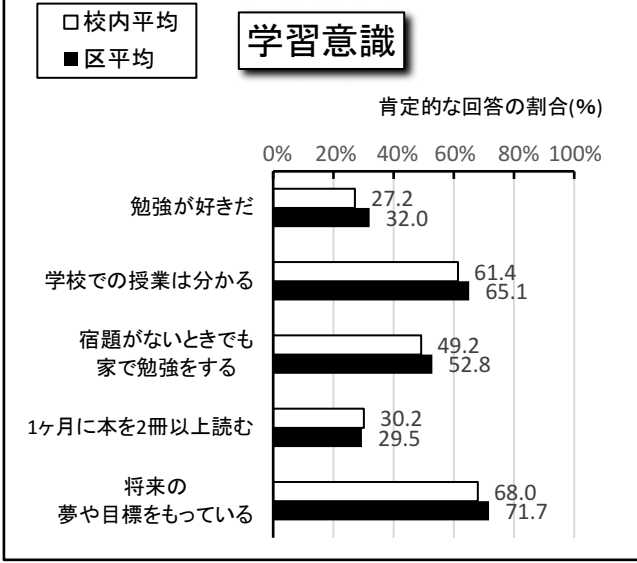
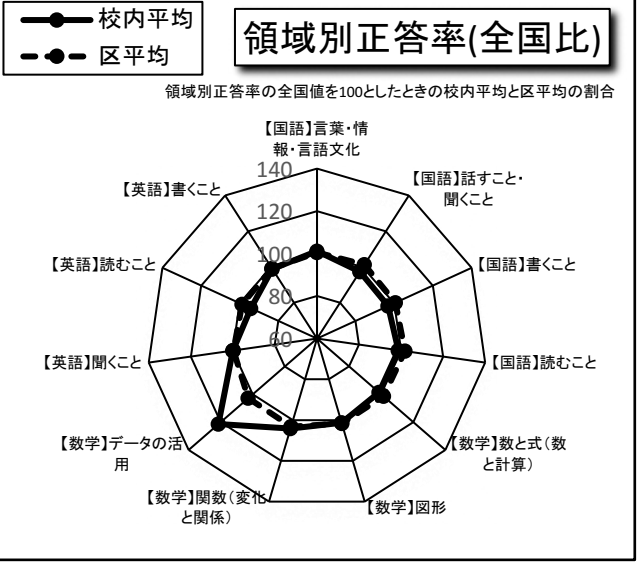
「学習定着度調査」分析結果

- 【国語】平均正答率67.8%、校内通過率65.6%である。どの学年も本文の読み取りに関する問題の正答率は比較的高いが、その内容を踏まえて「書くこと」には課題がある。「何を」「どのように」書くか、問題文から正しく読み取り、それに沿って書く力が必要である。また、漢字の書きも正答率が低いため、日々の漢字学習の徹底や読書の推進などに努めていく。
- 【数学】平均正答率54.8%、校内通過率52.5%である。領域別では「データの活用」「関数」に課題があるため、習熟度別少人数授業で基礎・基本の徹底および充実を図っていく。また、サマースクールや放課後対策などを活用して、下位層の個別対応および学校全体のボトムアップを行っていく。
- 【英語】平均正答率・校内通過率ともに63.3%である。個別の課題として、書くことに対する無解答を減らすために、英語学習の基礎である音から文字への接続を意識し、内容だけでなく、正確性を高めるために語順を意識して書けるよう指導を行う。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダード(虎の巻)を基盤とした「分かる授業」を共通実践するとともに、数学、英語では少人数指導を展開し、個に応じたきめ細かい指導を行う。
- 読書習慣・読解力をつけるために、毎日始業前の時間を活用して朝読書に取り組む。また、年3回「読書Week」を設定し、ポップ作成などを通して生徒の意欲向上を図っていく。
- 基礎・基本の定着を図るために、全教科において放課後定期考査対策を行う。また、漢字・数学・英語検定を積極的に実施し、土曜スクールで模擬テストなどに取り組む。
- 学習ボランティアを活用して、毎週金曜日の放課後に自主学習教室を実施する。
- 国語、数学、英語の学習コンテストをそれぞれ年1回行い、事前学習を充実させるとともに、基礎・基本の定着を図る。
- A Iドリルの課題や家庭学習ノートを充実させ、自学自習の習慣を身につけさせる。
- 「教室の前方には何も貼らない・置かない」とし、生徒が集中して学習に取り組めるよう、教室環境の整備を図る。

第六中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	68.6	67.5	65.7	72.4	66.3	84.7	82.6	75.0	60.9	50.0	61.1	50.0
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	65.3	59.9	59.1	64.9	62.8	84.0	76.3	63.4	49.5	54.0	52.9	42.5
平均正答率(R7)	67.6	60.2	64.8	64.8	59.9	88.4	73.4	63.8	58.3	64.9	57.0	55.3
平均正答率(R6)	66.4	51.4	59.8	59.8	64.6	88.1	70.0	48.7	52.0	69.8	39.0	49.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【全校】全ての教科の平均正答率が、昨年度よりも上回った。1年生国語、2年生国語・数学・英語、3年生数学で全国平均を上回り、特に2年生の数学は、全国平均を6.1ポイント上回った。

【国語】「言葉・情報・言語文化」の領域で区平均とほぼ同じ結果となった。2年生は、通過率が前年度(1年生時)よりも17.7ポイント上昇した。

【数学】「データの活用」の領域で区平均を大幅に上回り、他の領域でも区平均とほぼ同じ結果となった。通過率では、全国平均と比較すると2年生は11.9ポイント、3年生は5.9ポイント上回った。

【英語】「書くこと」「聞くこと」の領域で区平均とほぼ同じ結果となった。通過率では、全国平均と比較すると2年生は3.2ポイント上回った。

【意識調査】令和6年度より、本校では「朝読書」に取り組んだ。「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目では、肯定的回答が昨年度は28.4%だったものの、今年度は30.2%へと1.8ポイント上昇し、区平均を上回った。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードに基づいた主体的・対話的で深い学びを実現し、特に「思考力・判断力・表現力」を身につけさせることに重点を置き、伝える力の育成に力を入れていく。
- 全ての授業で、一人ひとりの学習状況を把握し個に応じた指導を実践していく。
- 苦手意識の強い教科や、基礎学力の定着率の低い分野や単元では、反復学習を徹底する。漢字・計算・スペリングの各コンテストを実施し、知識の定着を図る。
- ICTを効果的に活用することにより、深い学びの実現を進める。また、AIドリルを使った学習を5教科で積極的に行っている。
- 放課後補充教室では、全生徒を対象に教職員が全校体制で実施している。また、家庭学習の在り方を検討し、より効果的な学習となるよう工夫して取り組んでいる。
- 「本に触れる機会」を増やし、読書活動を通じて語彙力や知識を増やし、読み解く力や文章力の向上させるために、朝読書をコンテスト期間を除いて通年で実施している。

●—— 校内平均
-●- 区平均

領域別正答率(全国比)

領域別正答率の全国値を100としたときの校内平均と区平均の割合

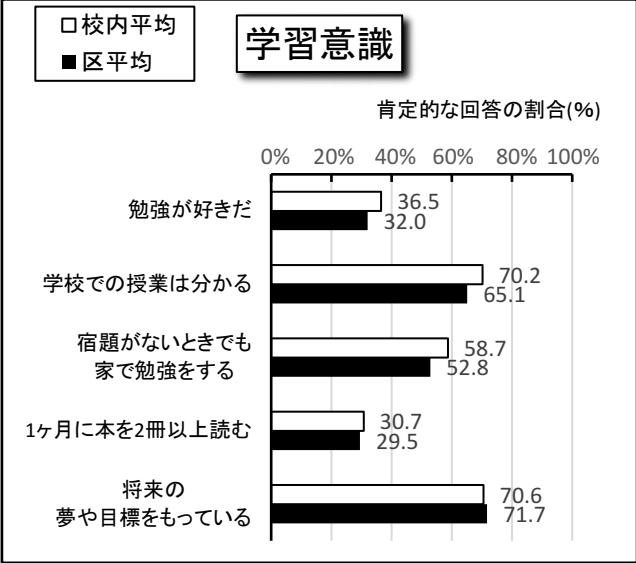
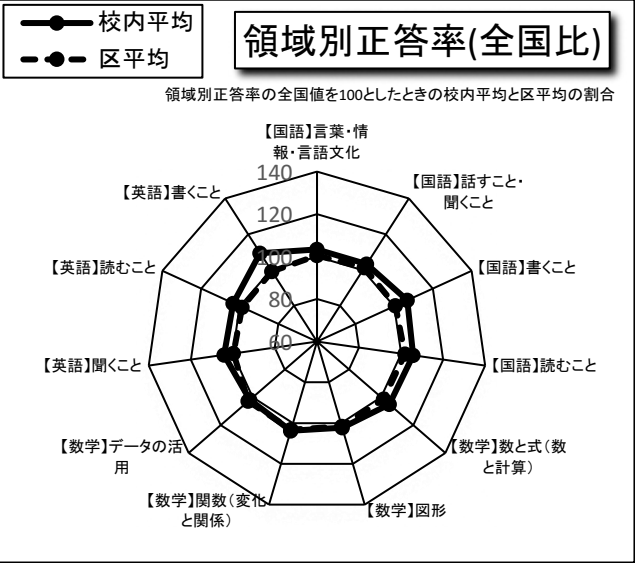
項目	校内平均 (%)	区平均 (%)
【国語】言葉・情報・言語文化	100	100
【国語】話すこと・聞くこと	100	100
【国語】書くこと	100	100
【国語】読むこと	100	100
【国語】聞くこと	100	100
【数学】数と式(数と計算)	100	100
【数学】図形	100	100
【数学】関数(変化と関係)	100	100
【数学】データの活用	100	100
【英語】読むこと	100	100



- 全体をみると、平均正答率は区平均を上回っている。通過率は国語・数学で前年より下がってはいるものの、7割以上を維持している。
- どの教科においても、区平均や全国平均を上回っている設問が多くみられる。一方で多くの設問で学力層による正答率の差が大きくなっており、学力が二極化している。
- 国語は、漢字や四字熟語、文法などの知識で差が大きくなっている。
- 数学は、1・2年生ではデータの活用、3年生の関数で差が大きくなっている。
- 英語は、2・3年生では英文記述と読み取りに課題が見られる。
- 学習に対する意識調査では、昨年区平均を下回っていた「将来の夢や目標をもっている」の項目について6ポイント上昇し、区平均を上回っている。

- 漢字・計算・スペリングコンテストを各学年で実施し、コンテスト週間には朝学習で集中して取り組むことにより、基礎の定着と学習意欲の向上を図る。
- 「読み解く力をつける時間」とした朝読書の取り組みを通して、読書習慣を身につけさせるとともに、読解力の向上を図る。
- 数学において、習熟度別少人数授業を行い、生徒の習熟度に応じて課題を設定する。足立スタンダードに基づく問題解決学習などを通して、問題と向き合う力を高める。
- 英語において、少人数授業でペアやグループでの活動を通して、発話量を増やして英語表現に親しむとともに、英語を用いた自己表現の練習を積み重ね、書くことへの自信をつけさせる。
- 学習支援ボランティアを活用した放課後自習教室を月に数回実施する。
- 夏季休業期間にはサマースクールとして、基礎の定着を目的とする補充教室と、学習習慣の定着を目的とする自習教室を実施する。

第九中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	69.6	65.5	74.2	71.5	71.5	89.2	88.8	71.2	68.0	52.6	55.8	66.7
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	72.2	61.4	71.1	78.5	74.3	85.3	76.7	67.5	69.9	62.3	44.4	60.5
平均正答率(R7)	70.3	59.8	70.8	65.8	63.6	91.0	78.5	62.6	62.4	67.4	54.1	67.0
平均正答率(R6)	69.5	52.5	67.0	66.0	69.1	88.8	70.3	51.4	62.9	71.7	38.7	59.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

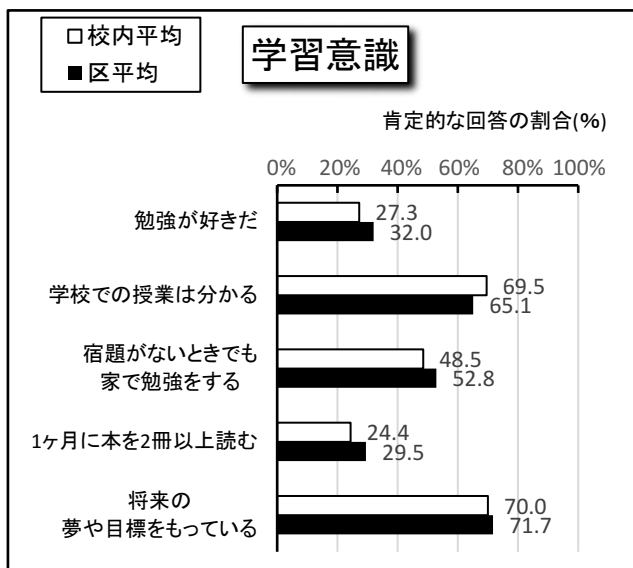
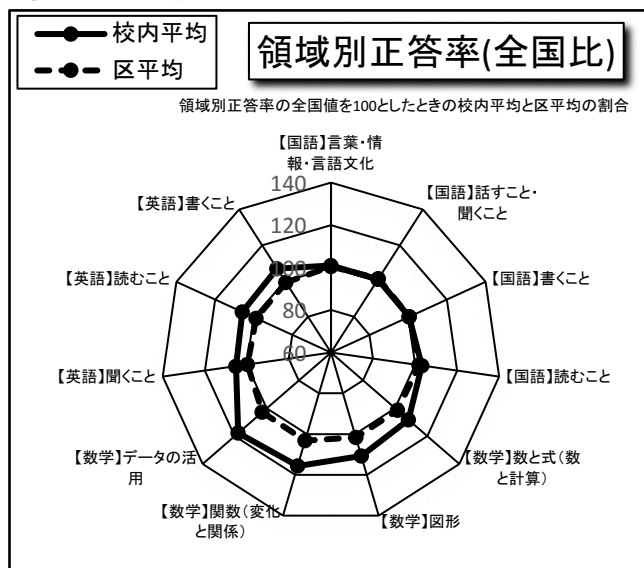
「学習定着度調査」分析結果

- 今年度、各教科を合計した学校全体の通過率は約69.8%となり、昨年度の68.2%を1.6ポイント上回った。また、各教科の通過率を前年度と比べると、国語はマイナスであったが、数学では4.1ポイント、英語では3.1ポイント上昇した。
- 通過率を前年度と比較すると、ほぼ全ての学年・教科で増加がみられた。特に2年生の国語においては88.8%と特に高かった。一方、3年生国語の通過率は、前年度から10.3ポイントの減少となった。
- 領域別正答率は、英語の「書くこと」で区平均を大きく上回ることができた。
- 学習意識の結果を見ると、「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」と答えた生徒の割合が昨年度は区平均を下回っていたが、今年度は区平均を上回った。
- 「将来の夢や希望をもっている」と答えた生徒の割合は区平均を1.1ポイント下回り、昨年度より3.3ポイントと下回った。

学校による学力向上への主な取り組み

- 各教科で、AIドリルを活用した朝学習や課題等の取り組みを継続して実施する。
- 国語では、文章、詩歌等を読み込み、様々な表現方法や言葉のきまりを知り、自分の考えを広げたり深めたりする。また詩の創作や発表などを通して自分の考えを言語化し、豊かな言葉で表現する力を身につけさせる。
- 数学では単元ごとに基礎的な知識・技能を確認するテストを行い、理解が不十分な生徒への個別対応を行う。また発展的な問題に対して、生徒間の教え合いを通して説明する力の向上を図り、発表する場面を多く設けて学び合いを深める機会を確保する。言葉や数式、表、グラフ等の数学的な表現を用いて論理的に考察する力も伸ばしていく。
- 英語ではペアやグループでの活動を通して、自分の思いや考えを伝える活動を取り入れ語彙力を身につけさせる。さらにコンテスト等も実施し、発表活動も取り入れていく。
- 朝学習とともに朝読書も実施し、読書習慣の確立を目指していく。

第十中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	72.3	72.2	75.4	73.2	68.5	91.1	78.4	80.7	63.6	65.2	68.3	68.3
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	71.3	71.4	72.5	77.5	82.4	85.9	82.3	79.6	70.7	54.4	52.7	61.2
平均正答率(R7)	68.7	65.2	71.5	64.9	65.1	91.9	72.9	68.8	61.4	69.1	62.1	66.1
平均正答率(R6)	69.7	59.2	69.2	66.1	74.3	89.6	72.4	60.2	63.9	70.6	42.7	62.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

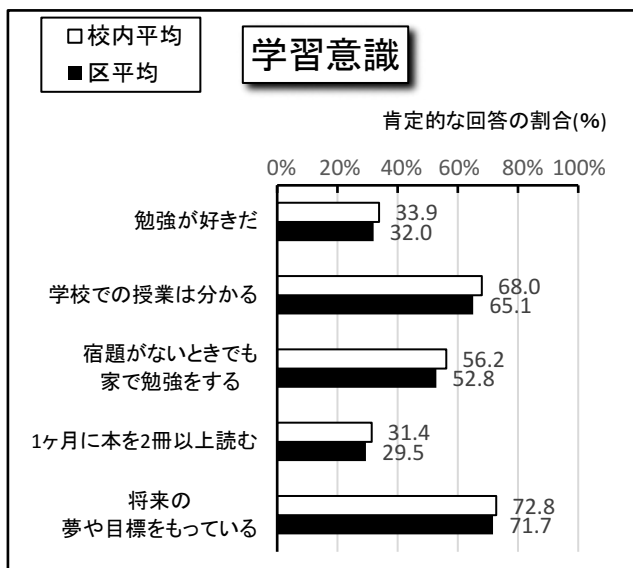
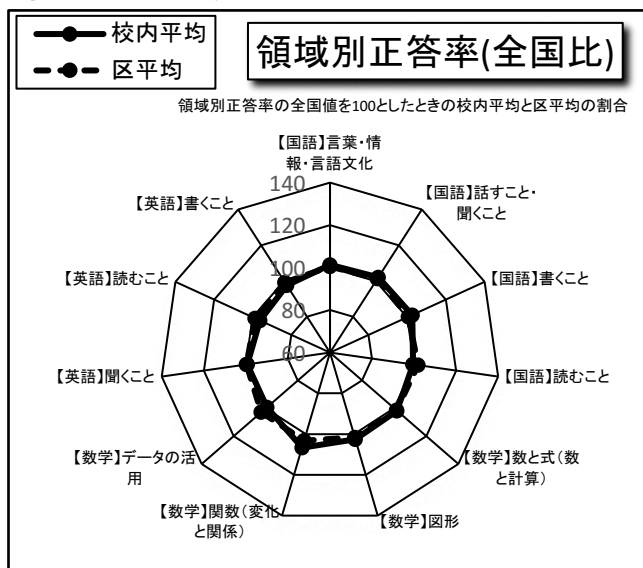
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の正答率は、全教科において区の平均を上回っている。
- ・学校全体の通過率は、特に英語において全学年が区の平均を超えている。
- ・領域別正答率では、2、3年生の数学、英語では全ての領域において区平均を超えている。
- ・学習意識調査では、約70%の生徒が「授業が分かる」と答えている(区平均+4.4ポイント)
- ・3年生の同集団で昨年度と比較すると、数学の通過率が79.6%から68.3%と大きく下がってしまっている。基本的な計算問題はよく解けていたが、記述の問題を答えることが苦手となっている。授業中に自分の考えを書く取り組みを増やしていく。
- ・読書週間を計画的、継続的に設定し本を読む習慣を定着させ、国語の学習につなげる。
- ・総合的な学習の時間や各教科の学習を通して、進路学習を充実させていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・国語:朝学習を利用して漢字の読み、書き、熟語の構成、文法を中心に基礎的な知識を定着させていく。読解については正確に読み取る力をつけ、条件に従って解答する力を積み重ねていく。
- ・数学:朝学習では授業の内容を吟味し、A Iドリルやプリントを活用して、既習の単元の復習を図る。また、3年生では毎日の家庭学習用プリントを配付し学力定着に努める。
- ・英語:読む力を高めるとともに、基本文等の短い文を繰り返し練習させ、書く力を高めていく。ポートフォリオを活用し、毎時間の振り返りを行うことで次の授業につなげる。
- ・朝学習では5教科の復習に取り組み、全校生徒の「学習に真面目に取り組む態度」を育成するとともに、学習習慣を確立させ、卒業までに下記の最大限の学力を身につけさせる。
 国語:基本的な漢字の読み書きの力:読み 中学校学習の1,623字、書き 小学校学習の1,026字程度
 数学:正負の数、文字式、方程式の計算:都立入試大問1(基礎・基本の問題)程度の理解
 英語:1,200語程度の単語の定着:CEFR A1(英検3級)程度の理解
 社会:地歴公民分野の重要語句の理解:重要語句、基本的な地名の理解
 理科:科学に関する基礎的な概念の理解:都立入試大問1(基礎・基本の問題)程度の理解

第十一中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	71.8	66.7	65.3	73.7	73.6	85.3	82.5	62.2	55.9	60.8	62.5	50.6
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	68.7	68.9	59.6	71.8	71.8	75.6	74.9	71.4	54.3	60.8	64.3	51.8
平均正答率(R7)	68.2	61.0	65.6	64.3	65.9	89.8	75.3	57.0	56.7	66.7	57.9	55.9
平均正答率(R6)	67.9	56.2	61.8	62.6	67.9	87.1	68.9	54.3	54.7	71.4	48.0	55.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学習意識調査では、全ての項目で肯定的な回答をする生徒の割合が区平均を上回っており、本校は学習に対して前向きな生徒が多いことがわかる。今後もこの強みを生かして、学力向上につなげていく必要がある。

調査結果については、学校全体の平均正答率が3科目全てで昨年度を上回っていること、1年生の3教科、2年生の国語・英語において昨年度の通過率を上回っていることから、本校生徒の学習が少しずつ定着してきていることがわかる。

ただし一方で、3年生は全ての教科で昨年度の通過率を下回っていることや、1年生はまだ入学して間もないということから、今後の取り組みがより重大であると考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

①A I ドリルの有効活用

朝学習や長期休業中の課題での活用ができています。今後はA I ドリルの特性を生かし、個に応じた問題配信に取り組んでいくことで、さらなる学習内容の定着を図っていく。

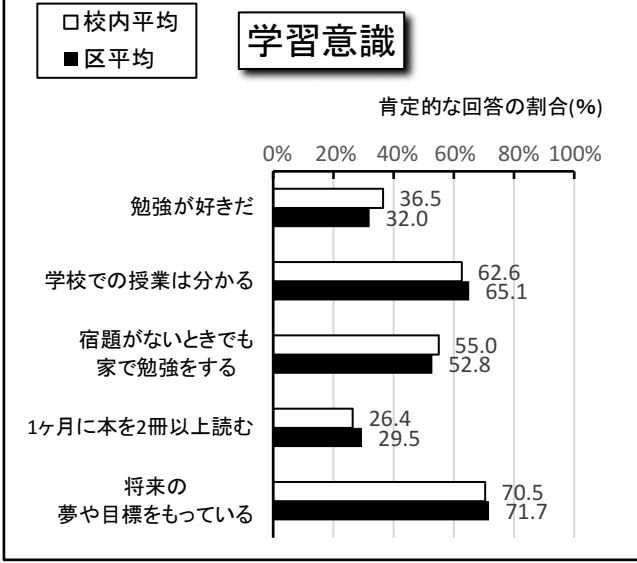
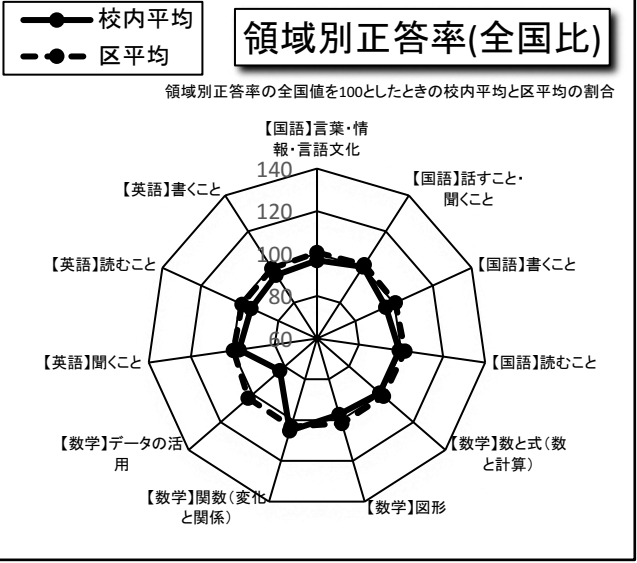
②足立スタンダードの実践

全ての授業で足立スタンダードに基づいた授業展開を実施していることが、生徒が見通しをもって学習に取り組んでいることにつながり、学習意識調査で良い結果が出たと解釈している。そのため、今後も足立スタンダードの実践を継続していく。

③学習習慣の確立

金曜日の朝テスト、放課後の補充教室、家庭学習ノートの取り組みにより、基礎的な学力が身につく、目標値の通過につながっていると考える。今後は、これらの取り組みについていけない生徒への支援策について講じていく。

第十二中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	68.0	60.2	62.1	67.8	61.4	86.4	81.7	75.7	60.2	50.0	38.5	37.2
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	63.9	58.8	52.0	73.6	79.2	78.3	64.9	54.5	29.9	54.0	42.5	42.5
平均正答率(R7)	67.1	57.6	63.1	62.2	58.7	89.9	74.4	65.4	57.9	62.9	46.4	51.0
平均正答率(R6)	65.3	50.7	57.6	62.7	68.6	86.6	64.7	43.5	42.1	68.0	37.3	51.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語においては、平均正答率が昨年度と比べ学校全体で1.8ポイント上がっているが、3年生の通過率が低くなっている。また、校内平均を見ると「書くこと」「読むこと」の正答率が特に低くなっているため、個別指導などで記述式の問題演習を多く取り入れていく必要がある。

英語においては、どの領域に関しても区平均を下回っており、その中でも「読むこと」「書くこと」の正答率が低いことが分かる。小学校の外国語活動を通して、話す・聞く力は身につけている生徒が多い。しかし、文字を読んだり書いたりすることは中学校に入ってから学習が中心であるため、正答率が低いと考えられる。小学校とのギャップを埋めていくことが、正答率や目標値の通過率を上げる方法ではないかと分析する。

数学においては、1年生と3年生においてはどの領域に関しても区平均を下回っており、特に「数と式」については区平均を約6ポイント下回っている。基本的な計算の困難さから、他の領域の正答率の低さにつながっていることも考えられる。2年生においては、「データの活用」の領域のみ、区平均を9.6ポイント下回っている。

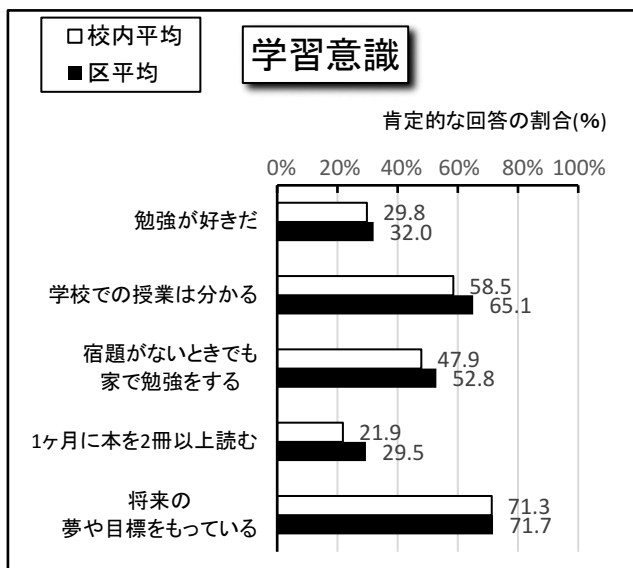
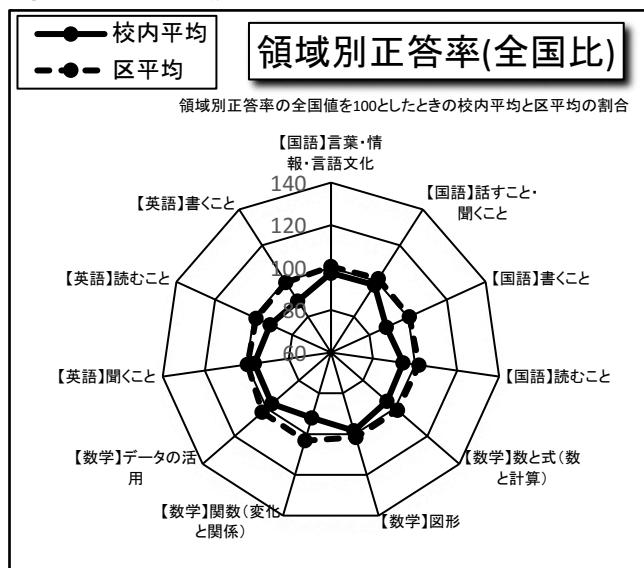
学校による学力向上への主な取り組み

国語は、自分の考えを文章にする練習を取り入れる必要がある。文章を記述することの習慣を身につけ、「書くこと」について自信をつけさせる。また、A Iドリルなどでの復習を継続的に行うことを学校全体の取り組みとして行うことで、語彙力の向上や文法事項の定着を図り、言語活動を充実させる。

英語は、特に1年生の前期において、アルファベットやフォニックスの練習を繰り返し行い、文字と音を一致させるよう指導している。教科書の内容理解は、まずピクチャーカードを見ながら本文を聞き、音からの理解を増やすようにしている。また文法事項はA Iドリルを使用することで、繰り返し取り組みせ、定着を促している。

数学は、基本的な計算力の向上が最優先課題である。そのため、サマースクールや放課後の補習を利用して、基本的な計算力に課題のある生徒に対して、A Iドリルなどを活用した補習を行う。「データの活用」の領域の得点力向上のために、授業でその内容を扱う直前に、全学年の既習事項を学習する機会を、朝学習や放課後の補習で設ける。

第十三中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	63.0	56.9	53.6	63.7	77.8	81.9	77.8	50.6	40.9	47.4	42.9	38.9
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	72.6	60.4	59.4	72.4	70.3	78.4	77.7	65.6	42.2	67.8	45.0	57.2
平均正答率(R7)	65.1	56.2	59.6	62.7	68.5	89.1	70.3	51.0	48.9	62.4	47.7	52.3
平均正答率(R6)	67.1	52.7	61.9	60.5	66.4	86.8	69.1	50.7	50.5	72.0	39.4	57.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

領域別正答率によると、本校は全体的に区平均より大きく下回っているわけではない。このことから「学びの基礎」はある程度定着していると考えられる。また、生徒たちの授業を受ける態度からは「学習には前向きに取り組んでいる。」と捉えている。

1年生は前年度と比較すると数学と英語の通過率がわずかに向上している。一方で2・3年生においては数学と英語の通過率が、1・3年生においては国語の通過率が下がっている。特に3学年においては全ての教科の通過率が前年度より低下しているので、今後の受験を見据えて学力向上を強化していく必要がある。

領域別正答率によると数学は「関数」、国語と英語は「書くこと」に苦手感が見受けられる。このことから、数学は「思考力」を、国語と英語は「文章理解力」と「頭で考えたことを言葉で表現する力」を養うことが今後の課題であると判断した。

また、学習意識の結果によると、家庭学習の習慣が身につけている生徒が50%未満である。これが学力定着度に反映されたと推測できる。

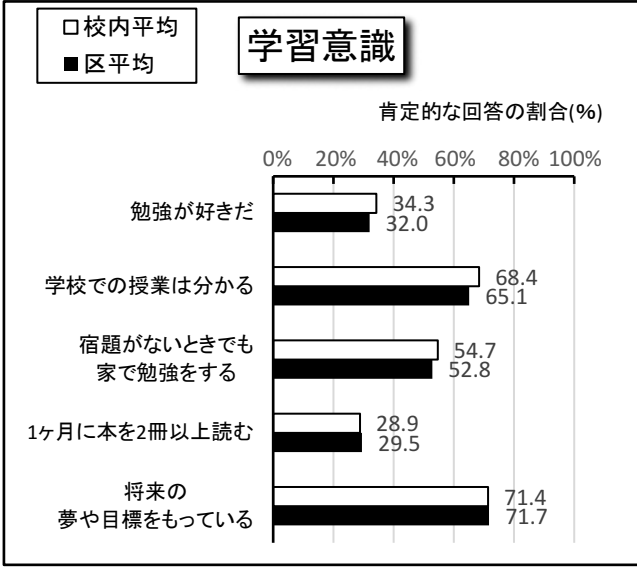
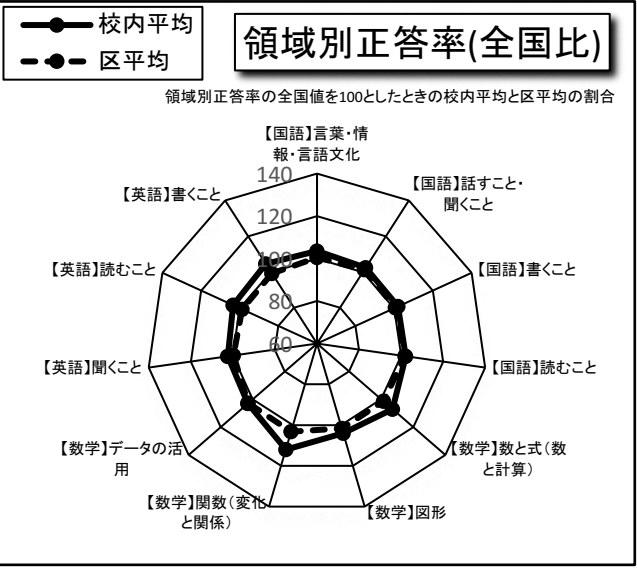
学校による学力向上への主な取り組み

今年度から朝の補充時間を設定し、毎日10分間A Iドリルを活用して基礎・基本の定着を図っている。小中連携でも、A Iドリルを活用していくことを共通実践課題としており、生徒個人のつまづきに合わせてA Iが問題を出していけるようになっている。また、宿題や長期休業中の課題もA Iドリルを活用するようにし、家庭学習が苦手な生徒にも取り組みやすくなるようにしている。

国語・英語の「書くこと」と「文章理解力」、数学の「思考力」は、授業で足立スタンダードを活用した授業をベースに、話し合い活動やグループ活動、パソコンのツールなどを活用した課題解決型学習などを通して力が付くようにと各教科担任が工夫をしている。特にICTを活用した授業研究を深め、思考力・判断力が身につくように授業展開している教員が増えてきている。

家庭学習の習慣が身につくよう学習計画表も全学年統一したものを作成し、毎日点検して生徒への声掛けをするようにしている。

第十四中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	73.6	67.9	70.4	76.0	76.0	91.7	79.8	59.7	53.6	65.5	67.7	65.5
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	72.7	69.3	66.2	74.7	77.9	80.0	83.1	79.2	62.0	58.3	47.9	55.5
平均正答率(R7)	69.8	62.8	68.6	66.1	68.3	91.5	74.2	55.6	57.3	69.3	63.2	65.1
平均正答率(R6)	69.4	57.4	66.3	63.5	70.0	87.7	75.4	59.9	60.9	69.0	39.3	57.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【学年別の傾向】

○1年生の通過率は、全教科70%以上で、特に英語は90%を超えた。また、同一集団における経年変化で見ると令和6年度と比べて、2年生の通過率は、国語が5.1ポイント上昇、数学、英語はそれぞれ18.2ポイント、26.4ポイント低下している。3年生の通過率は、国語と数学は17.6ポイント、11.5ポイント低下し、英語は3.5ポイント上昇している。

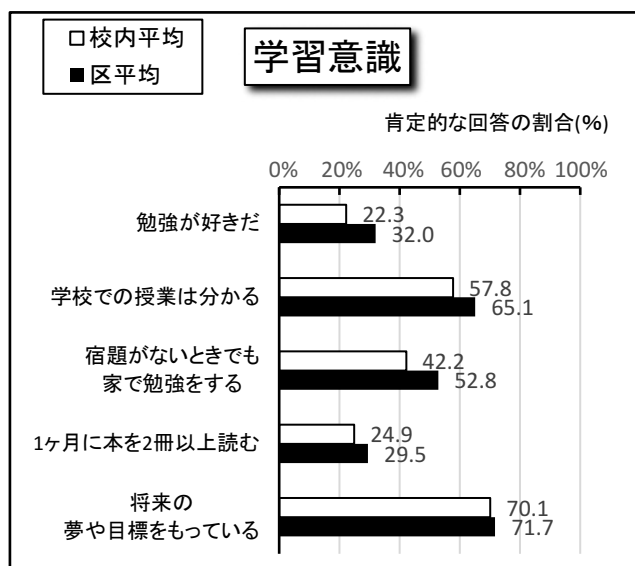
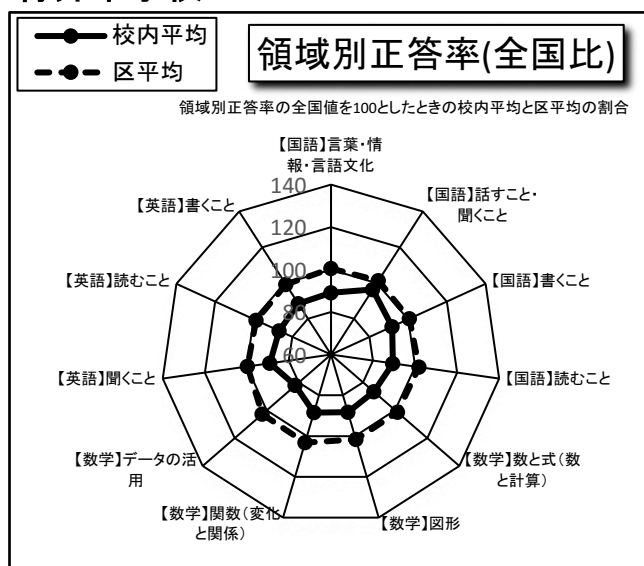
【領域と分析】

○2年生の英語は少人数習熟度別授業を生かし、学習内容を細かく区切り、生徒が「できた」「わかった」と感じられる成功体験を増やす。また、補充教室などではA Iドリルや小テストなどを活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。3年生の国語は教科書や日常の中で触れる言葉の定着を図るため、定期的な小テストや反復練習を取り入れたり、多様な文章に触れるため読書活動を推進したり、様々なジャンルの文章に触れたりする機会を増やす。

学校による学力向上への主な取り組み

- 国語の記述（段落構成、論理的表現、語句の適切な使用など）を明確にし、教科書教材だけでなく、新聞記事やグラフなどの多様な文章を扱う機会を増やす。
- 数学と英語は、基礎的・基本的な学力の定着を図るために、朝学習や授業中にA Iドリルを使用し、学習成果を実感できるような学習を工夫する。
- 漢字・計算・スペリングコンテストなどの各種コンテストを行い、多くの生徒が満点や合格点を取れるように指導し、成功体験を増やす。
- 教職員の授業力を高める取り組みとして、近隣の3つの小学校と連携し研究授業を行い、学習者主体で達成感のある授業を展開する。また、校内で他教科の授業をお互いに見学し、協議会を行う機会を2回設ける。教職員が協議会の内容を授業に生かすよう学校として取り組む。
- 授業において一人一台タブレット端末を利活用し、課題の提供を行うなど、家庭学習に取り組ませていく。

青井中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	56.4	54.5	50.5	53.6	64.3	78.6	70.5	61.4	50.0	37.9	34.5	24.1
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	67.3	64.5	67.3	69.6	71.7	71.7	55.2	44.8	34.5	74.3	71.4	88.6
平均正答率(R7)	63.0	51.8	54.8	59.9	55.8	87.9	69.5	56.9	51.9	56.2	40.1	39.4
平均正答率(R6)	66.9	53.0	66.8	60.4	63.9	83.0	62.4	35.3	42.5	79.1	52.0	73.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

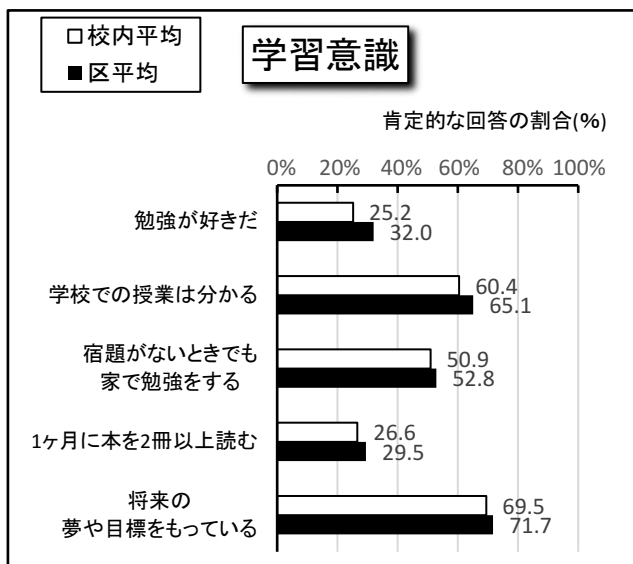
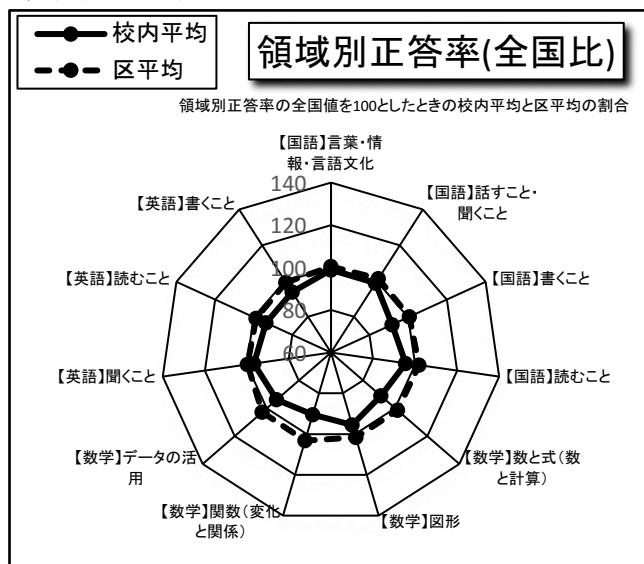
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率は、3教科共に昨年度を下回っている。
- 通過率は1・2年生に比べて3年生が低い。1年生はある程度、小学校で学びの基礎ができていると考えられる。2年生は昨年度に比べて国語の通過率は上がったが、数学・英語は下がってしまった。3年生は3教科共に通過率が低く、昨年度に比べて10ポイント以上下がっている。数学で実施している少人数授業で丁寧にフォローする必要がある。
- 学力層の割合を見ると、1・2年生はA層とD層の差が非常に大きく、学力状況の二極化が進んでいる。3年生はA層の割合が少なく、D層の割合が大きい。特に英語においてA層が0人であることから、基礎・基本の定着が課題である。
- どの学年もD層は学習習慣が身につけていない。学習に対する目的意識・興味関心をもたせる指導の工夫と対策が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 国語・数学・英語・社会・理科の5教科で、家庭学習の定着を図るためA I ドリルを活用した課題学習を行っている。定着状況を確認するため、1週間に1回、前週分の確認問題を放課後に全員対象で行っている。
- 数学では全学年で少人数授業を実施し、生徒の学力に合わせた授業を展開している。
- 数学では、振り返りシートと単元テストを活用し、随時定着度を測り授業の改善に生かしている。
- 読解力を身につけさせるために、毎朝10分間の朝読書を徹底している。
- 各授業で、ペアワークやグループワークを導入し、生徒が主体的に学ぶ意欲を育てている。
- 漢字検定・英語検定・数学検定を学校で実施し、資格取得を奨励している。
- 道徳・特別活動・キャリア教育(進路指導を含む)を通して、自己肯定感や自尊心を高める指導に力を入れている。
- 各授業でI C T機器を積極的に活用し、生徒が自ら調べまとめることで、生徒が主体的に学ぶ意欲を育てている。

伊興中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	63.8	56.2	61.6	71.5	68.9	81.9	70.5	54.0	54.0	46.8	43.0	45.3
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	72.3	61.8	58.7	68.8	71.3	70.2	77.9	68.9	44.2	70.6	42.5	60.1
平均正答率(R7)	66.3	54.6	62.7	64.2	60.2	88.3	70.7	52.8	53.6	63.8	48.9	53.4
平均正答率(R6)	68.9	52.0	64.4	61.4	65.5	84.4	71.4	50.0	52.0	75.3	36.5	61.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】平均正答率は足立区の値を1年生は1.1ポイント、2年生は3.6ポイント、3年生は2.4ポイント下回っている。1、2年生では特に「書くこと」に課題があり、その中でも「漢字の書き」が特に苦手である。3年生では特に「説明的文章」に課題があり、原因と結果、対比関係、抽象具体を意識した読解を意識し、そこから意見をまとめ、書く指導が必要である。

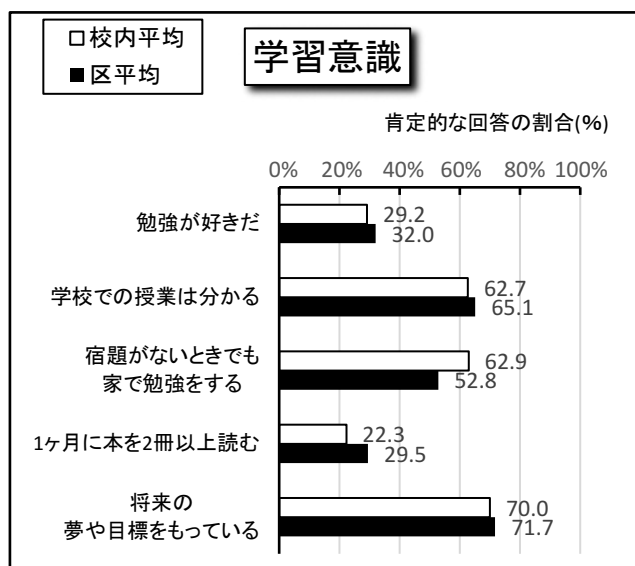
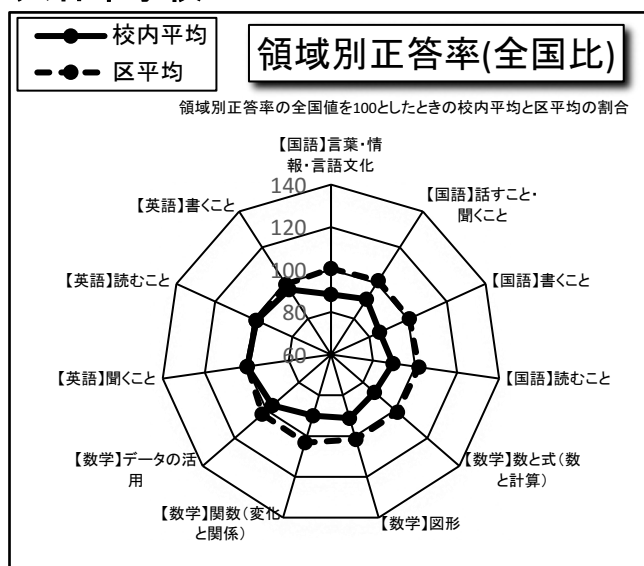
【数学】平均正答率は足立区の値を1年生は4.9ポイント、2年生は6.3ポイント、3年生は5.5ポイント下回っている。2年生は「関数」に課題があり、1・3年生は基礎的な数的処理能力に課題がある。基礎的・基本的な計算について重点的、継続的な取り組みが必要である。

【英語】平均正答率は足立区の値を1年生は1.4ポイント、2年生は3.7ポイント下回り、3年生は4.9ポイント下回っている。1、2年生は「読むこと」「書くこと」に課題がある。3年生は選択式、記述式は解答率が上昇しているが、短答式では14.4ポイント下回っている。A層とD層との差が大きく、学力の二極化となっている。丁寧にスモールステップを踏みながら、今まで以上に丁寧な指導が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝読書：毎朝10分間の朝読書を主体とし、言語能力の育成を図る。
- 家庭学習、A I ドリルの活用：基礎的・基本的な内容の定着のため、毎週100問以上取り組む。また、金曜日に国語・数学・英語・理科・社会の課題を配付し、家庭学習に取り組む。
- 補充教室：毎週水曜日に確認テストを行い、学習内容が未定着の生徒を対象に実施する。また、各教科学習課題、定期考査前の補充学習を実施する。
- 学習コンテスト：漢字、計算、英単語のコンテストをそれぞれ年1～2回実施し、基礎学力の定着を図る。
- サマースクール：調査結果や学習進度につまずきのある生徒を対象に補充学習を実施する。
- 中1 夏季勉強合宿(通所型)：区学力調査で正答率40%未満の対象生徒に、小学校の算数から中学1年生の内容までの補充学習を行う。
- 校内研修の取り組み：学習のめあてを自分事として捉え、見通しをもちながら課題に取り組む「足立スタンダード」に基づいた授業の実践を行う。

入谷中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	53.6	53.6	70.2	58.0	58.0	86.0	68.8	62.5	50.0	27.8	33.3	44.4
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	70.4	50.0	56.4	80.0	53.3	86.7	63.2	42.1	42.1	70.0	55.0	47.6
平均正答率(R7)	59.6	54.4	72.7	57.9	57.4	91.3	66.7	56.0	57.2	57.9	43.6	54.2
平均正答率(R6)	64.4	48.1	58.6	59.0	59.5	88.6	62.0	43.7	51.7	70.5	43.0	51.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語科】前年度との比較で1・3年生は通過率が大きく下降しており、確実に押さえたい漢字問題の誤答が目立つ。2年生は読解問題の誤答が多い。丁寧な分析と指導の見直しを行う。

【数学科】前年度との比較で、1年生は平均正答率が減少し、通過率が増加していることから、学力の二極化が進行していると考えられる。2年生は平均正答率および通過率が上昇しており、前年度の取り組みが成果を上げたといえる。3年生は通過率が減少し、目標値の増加に対し、平均正答率の上昇は0.6ポイントにとどまったことから、多くの生徒が数学に課題を抱えていると考えられる。

【英語科】学校全体の領域別正答率を見ると、「書くこと」「読むこと」「聞くこと」の全てにおいて概ね区平均と同等であった。しかし、学年別に見ると、次のような課題がある。3年生は、通過率が前年度よりも下がっており、特に聞き取りの問題に課題が見られる。2年生は、書くことの「語句や英文の正確な記述」に課題が見られる。1年生は、「必要な情報の聞き取り」に課題が見られる生徒が多い。

学校による学力向上への主な取り組み

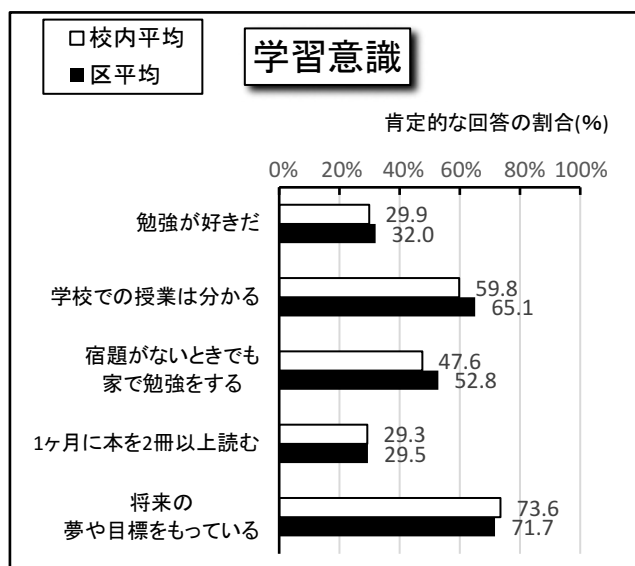
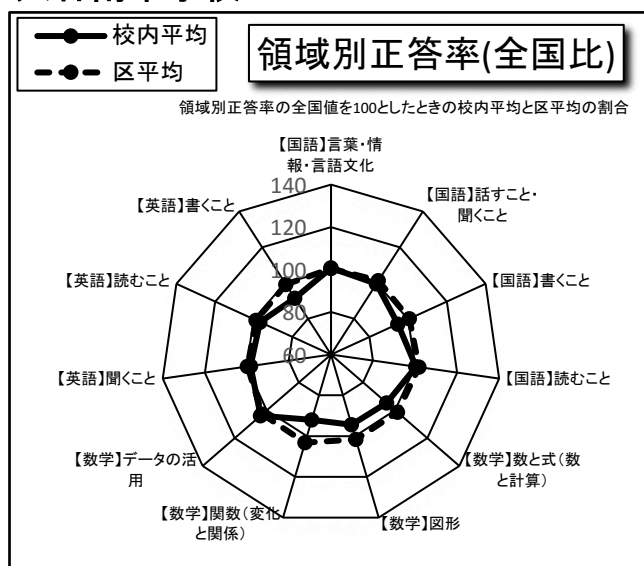
【補習教室】月毎に教科を決めて朝学習、学力コンテストを実施し、基礎学力の定着を図っている。放課後の補習を行う際には、生徒同士の教え合い活動を取り入れ、学びに向かう姿勢を育んでいる。

【国語科】授業の初めには、毎時間漢字テストを実施している。授業では話し合い・学び合い活動を多く取り入れるほか、ICTも活用し言語活動の充実を図っていく。

【数学科】足立スタンダードに基づいた問題解決の授業を実践していく。毎時間のノート点検や丸つけ法を駆使して、生徒の実態を常に把握し、その実態に合わせ、指導改善を行う。

【英語科】授業の帯活動で英単語のビンゴを行ったり、ペアでの会話を取り入れたたりすることにより、英語の得意、不得意な生徒が両者ともに主体的に取り組める活動を実施していく。また、ALTと給食や休み時間に話をする時間を屋内で積極的に取り入れ、「聞く力」「話す力」の向上を図っていく。さらに、「話すこと」の言語活動の中で、考え、話したことを正確に書く活動を行い、「話す力」と「書く力」の統合的な向上を図っていく。

入谷南中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	67.1	56.3	59.5	72.0	63.4	89.2	79.4	65.4	53.3	50.0	40.4	39.4
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	62.8	58.1	55.0	70.9	72.1	75.7	71.8	61.5	43.3	46.4	41.2	45.6
平均正答率(R7)	68.0	55.3	61.5	65.7	60.0	90.3	73.2	57.6	55.2	64.7	48.4	52.0
平均正答率(R6)	64.9	49.9	59.5	61.6	68.0	87.4	66.6	46.2	48.7	66.5	34.4	52.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語においては、校内平均正答率と区平均正答率を比較すると、1年生は0.4ポイント上回り、2年生は1.1ポイント下回り、3年生は1.5ポイント下回っている。領域別正答率では、書くことについて1年生が1.6ポイント、2年生が2.1ポイント、3年生は5ポイント下回っている。書くことの領域において学力向上の取り組みを徹底する。

数学においては、校内平均正答率と区平均正答率を比べると、1年生では5.1ポイント、2年生では1.5ポイント、3年生では6.0ポイント下回っている。領域別正答率では、2年生においてデータの活用の単元で区の平均を上回っている。その他の領域では全ての学年で区の平均を下回っているため、基礎学力向上への取り組みを行う。

英語においては、校内平均正答率と区平均正答率を比較すると、1年生は0.6ポイント上回っている。2年生は2.1ポイント、3年生は6.3ポイント、下回っている。領域別正答率では、1年生は書くことで区平均を下回っている。2年生、3年生は、3つの領域で区平均を下回っている。特に、書くことの領域において学力向上への取り組みを徹底する。

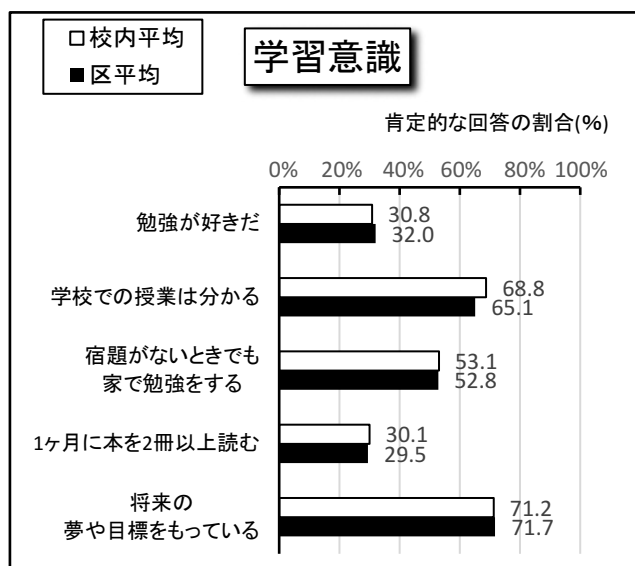
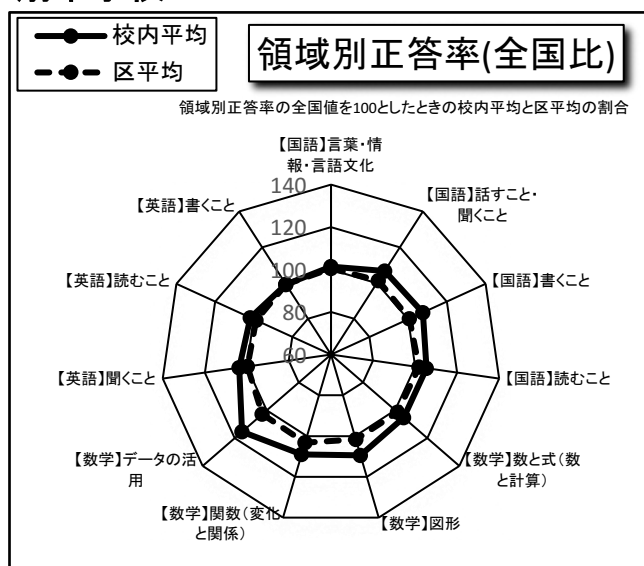
学校による学力向上への主な取り組み

国語においては、読むことの活動で語彙や表現の種類の知識を定着させながら内容理解に取り組む。その上で、書くことの活動ではICT教材も用いながら、考えたことや読み取ったことについて表現する練習を行う。また、問いに正対し、形式を守って書く力を定着させる。

数学においては、AIドリルの活用を促すことで反復練習を徹底させ、計算などの基礎事項の定着を図る。AIドリルでは授業内容の問題を出題し、誤答に合わせて必要な復習をさせることで、一人ひとりに応じた練習を行う。また、定期考査前に補習を行ったり、小テストなどの実施を多く設定することで継続した学習支援を行う。

英語においては、聞くことと読むことの活動で、既習の語彙や表現を多く使って内容理解の練習を行い語彙や表現の定着を図る。また、聞いたり読んだりしたことに対して自分の考えやその理由・根拠を英語で話す活動を行ったり、話した英語を書いたりする練習を行う。英語を書いた際に、内容面と言語面の点から指導を行い、書く力の向上を図る。

扇中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	73.7	72.6	66.7	75.8	85.5	93.5	84.6	73.8	55.4	59.3	57.6	50.8
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	75.0	68.9	69.4	85.9	75.0	81.3	76.3	62.7	55.9	63.8	68.6	70.0
平均正答率(R7)	70.6	64.0	67.3	68.7	73.9	94.1	76.0	63.5	58.6	66.8	53.0	59.2
平均正答率(R6)	69.8	58.3	68.2	66.1	72.8	88.9	70.2	51.3	57.4	73.0	49.7	65.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

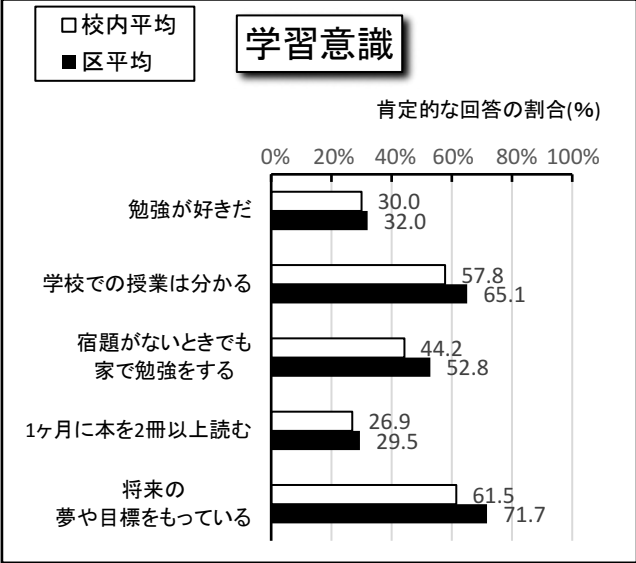
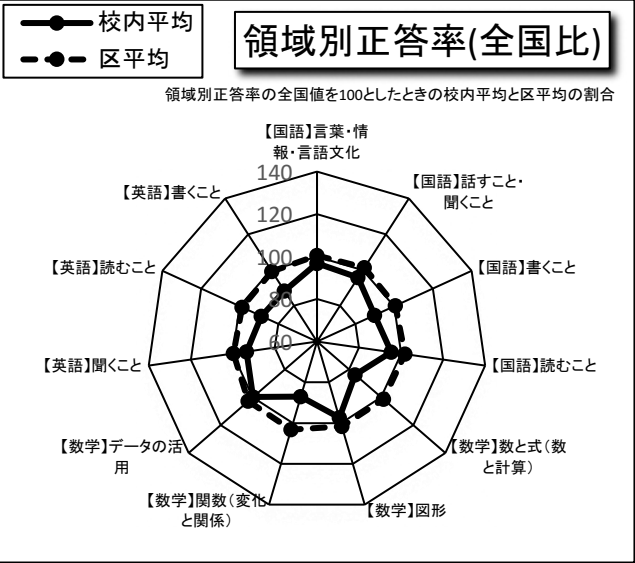
「学習定着度調査」分析結果

- 国語 観点別正答率で「思考・判断・表現」は全学年で区平均を上回った。領域別では1年生は「書くこと」が7.2ポイント、2年生は「読むこと」が3.5ポイント、3年生は「話すこと・聞くこと」が6.7ポイント上回った。しかし、「知識・技能」では1年生では2.9ポイント上回ったものの、2年生では0.1ポイント、3年生では1.0ポイント下回った。特に「言葉・情報・言語文化」の領域が課題である。
- 数学 通過率は、3年生はわずかに区平均を下回ったが、1・2年生は上回った。特に2年生の思考・判断・表現が、区平均を8.0ポイント上回った。少人数習熟度別授業において課題解決に向けて自ら考えさせる指導、考え方や理由を言葉で説明する指導を強化したことが、成果として表れている。
- 英語 通過率は、1・2年生は区平均を上回った。特に1年生は区の平均を7.5ポイント上回った。少人数習熟度別授業においてペアワークやグループワークを効率的に実施し、英語で表現する機会を増やしたことや、教材・教具を工夫したことが成果として表れている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 区学力調査のSP表を分析し、各学年、教科における課題を明確にした上で個に応じた指導や授業改善を実践する。
- 小中連携や研究を通じ、ICTを活用した授業作りを進める。複線型の授業を取り入れることで、自分なりに考えたり、相手の意見を聞いたりして思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- AIドリルを活用した放課後の補充学習を充実させる。個々の課題について演習を中心にを行い、個別指導や少人数指導を充実させる。
- 「興本扇の45冊」を選定し読書への関心を深めさせる。読書旬間として年2回実施する。また、読書カードの活用やおすすめの本カードを作成させ、読書活動を充実させる。
- 授業において前時の内容の振り返りや、既習事項を盛り込む。また、ねらいの明確化や、発問・授業形態の工夫により、主体的かつ対話的な授業を実現する。

加賀中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	66.0	51.7	57.3	63.6	56.4	72.7	82.7	55.8	57.7	45.9	38.9	33.3
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	56.6	53.1	59.9	68.5	77.8	77.8	55.0	38.1	33.3	44.9	39.2	62.7
平均正答率(R7)	65.2	53.7	61.0	59.6	58.2	83.2	73.2	54.1	54.5	62.1	45.4	49.0
平均正答率(R6)	63.8	50.3	61.8	61.2	69.3	86.9	63.3	38.9	40.9	67.2	37.6	61.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

【学習意識調査】「勉強が好きだ」の項目については、1、2年生は、肯定的な回答の割合が区平均を上回った。「宿題がないときでも家で勉強する」の項目は、2年生のみ、区平均を上回った。「学校での授業は分かる」の項目は、全学年ともに、区平均を下回り、課題である。

【全体】今年度、各教科を合計した学校全体の通過率は、58.3ポイントであり、昨年度の学校全体の通過率56.5ポイントに比べて、1.8ポイントほど上回った。

【国語】1、2年生は、今回の平均正答率が目標値と比べ、大きく上回った。2年生は、1年次の時の通過率に比べ、14.2ポイント上回ったが、3年生は、9.1ポイントほど下回った。全学年ともに「書くこと」の数値が低く、重点的な指導が必要である。

【数学】1、2年生は、平均正答率が目標値と比べ、上回ったが、3年生は、4.9ポイント下回った。特に、「数と計算」や「関数」の領域が十分に定着しておらず、課題である。

【英語】2年生は、平均正答率が目標値を上回っているものの、1年次の時の通過率よりも下回り、差が広がっている。2、3年生は、「読むこと」「書くこと」に課題が見られる。

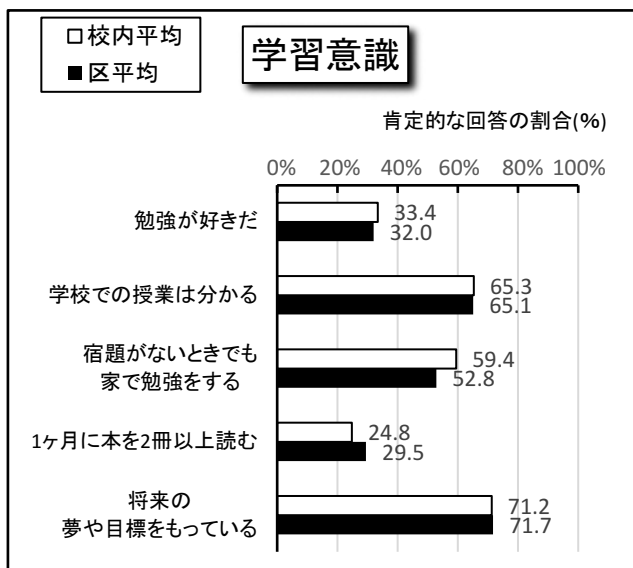
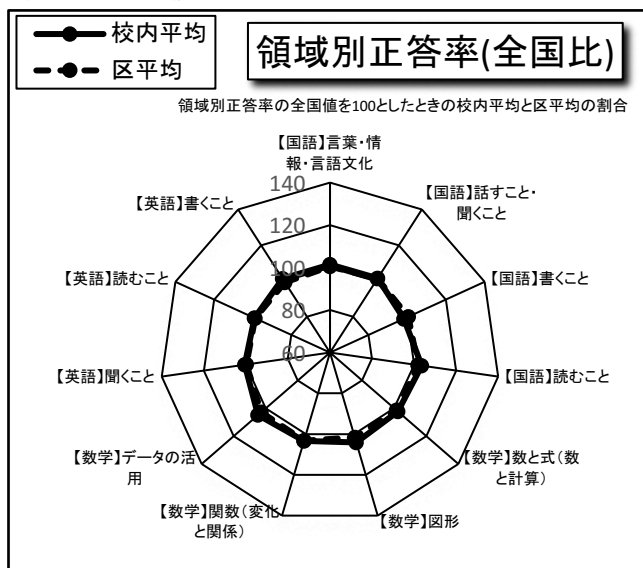
学校による学力向上への主な取り組み

【国語】普段の授業に加え、朝学習や補充学習、サマースクールなどで、言葉や漢字の反復学習を強化する。また、領域別には、全学年ともに、「読むこと」「書くこと」に課題があるため、根拠に基づいた読み取りや意見文の作成に重点的に取り組む。また、短作文や俳句の創作を行う際に、書き方を具体的に示すことにより、書くことへの抵抗感を減らす。

【数学】「数と計算」「変化と関係」「関数」などに課題が見られるため、授業内外において、計算問題や関数などに取り組ませるとともに、思考力・判断力・表現力を高めるために、話し合い活動を充実させる。また、単元テストを授業内で実施し、定期的に定着度を確認し未定着の部分を授業や朝学習、補充学習や家庭学習、サマースクールなどで着実に定着させる。

【英語】「読むこと」「書くこと」に課題があるため、基本的な文法や英文の理解を図る指導や教科書の音読などを繰り返す。また、ペアでのコミュニケーション活動や生成AIを用いた会話練習、パフォーマンステストなどを通して、「話す力」の向上を図る。加えて、単元テストや定期考査の結果などから、学習内容の定着度を確認し、逐次つまずきの解消を図る。

蒲原中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	69.6	64.7	65.5	70.9	73.2	80.5	80.7	64.6	51.7	58.1	56.0	62.7
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	74.2	66.3	70.9	72.9	74.8	83.2	86.0	70.1	67.7	63.6	54.3	62.3
平均正答率(R7)	68.7	60.8	67.3	65.2	66.2	89.1	74.5	59.6	56.7	67.1	55.8	62.9
平均正答率(R6)	68.6	55.0	67.0	61.0	70.0	88.1	73.2	52.3	61.6	71.1	42.1	59.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【3年生】

通過率は3教科において、すべて区平均、全国値を上回っている。

【2年生】

通過率は国語は、区平均、全国値を上回っている。数学は全国値を上回っているが、区平均は上回ることができなかった。英語は、区平均、全国値ともに超えることができなかった。

【1年生】

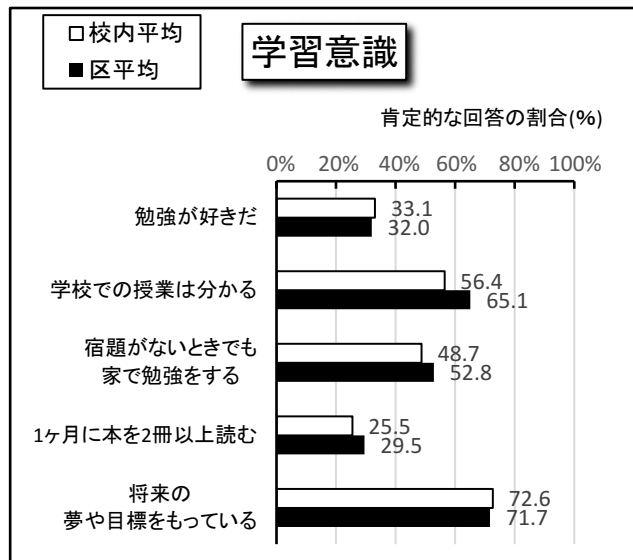
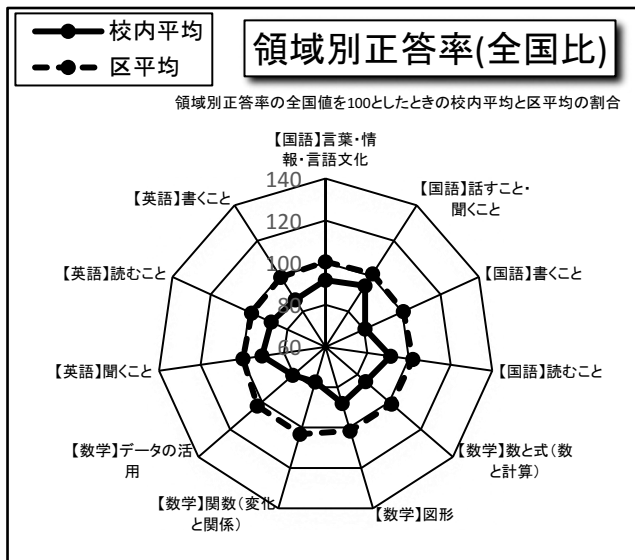
通過率は数学は、区平均、全国を上回ることができた。国語は、全国を上回ったものの、区平均は上回ることができなかった。英語は、区平均、全国ともに下回る結果となった。

昨年度に比べ、「読書」に対する意識がかなり下がっているため、国語、英語でこのような結果となったと考えられる。1・2年生では本を読む機会を増やして、学習への意識を高めていく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学活終了後、8時30分から25分間の朝学習(学びタイム)を実施している。全学年で基礎学力定着を目的として学習に取り組み、漢字・計算・英単語の学習コンテストでは、満点賞を表彰し、継続的に学習する習慣を身につけるようにしている。
- ・年4回の定期考査一週間前には、質問教室を開催し、放課後の時間に自習を行える教室を用意している。教科担当が巡回し、分からないところを質問できるようにしている。
- ・夏季休業中に、「サマースクール(補習教室)」を開催している。学年ごとに7日間で設定し、選択制・希望制で実施し、各教科の基本的内容の定着を図っている。
- ・東渚江小学校、北三谷小学校との小中連携では、授業観察や研究授業を通して、9年間の学びを意識した授業改善を相互に行っている。
- ・保護者向けに評価・評定説明会を定期考査前に実施。観点別評価の方法を説明し、評価評定への理解を深めていただいている。

栗島中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	56.5	50.5	48.4	62.5	72.9	89.6	72.2	63.3	39.2	29.8	14.0	26.3
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	57.6	51.8	53.2	67.1	64.7	70.6	52.6	38.6	31.6	50.7	47.4	50.0
平均正答率(R7)	62.6	48.9	54.8	63.0	62.9	89.2	69.0	53.3	50.7	53.5	29.7	42.3
平均正答率(R6)	61.8	48.5	59.8	59.9	64.0	84.6	55.7	32.9	43.8	68.8	41.1	54.2

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)] の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

各教科・各領域の正答率は全体的に区平均を下回っている。特に数学は本校の最重要課題であり、関数の計算・データの活用を苦手とする生徒が多い。簡単な計算問題から見直す必要がある。また全教科にわたって、記述式で答える問題は正答率が非常に低く、無解答率も高い。このことから「書くこと」には強い抵抗があることがうかがえる。

その反面、国語・英語ともに「書くこと・読むこと」に比べ、「話すこと・聞くこと」の領域は高く、言語活動を重視した授業での取り組みが活かされている。また、総合的な学習の時間「立志」での発表（プレゼンテーション）の成長段階に合わせた取り組みが成果として現れている。

学校意識調査では、肯定的な回答の割合は全体的に区平均と同等である。「学校での授業は分かる」と答えた生徒の割合は区平均より下回るが、「勉強が好きだ」と答えた生徒の割合は区平均を上回っている。常日頃より個に応じた授業展開を行い主体性を活かす授業の成果として、生徒の学習に対する意識は年々向上傾向にある。

学校による学力向上への主な取り組み

1 学習コンテスト (5教科)

各教科担当が基礎・基本の定着を目的として、問題を吟味して実施する。各生徒が自分の力に応じて目標点を定め、プレテストの結果に伴い目標点を再設定し、最終テストに臨む。学習したことができたという自己肯定感を高め、自己指導能力と学習意欲の向上を目指す。

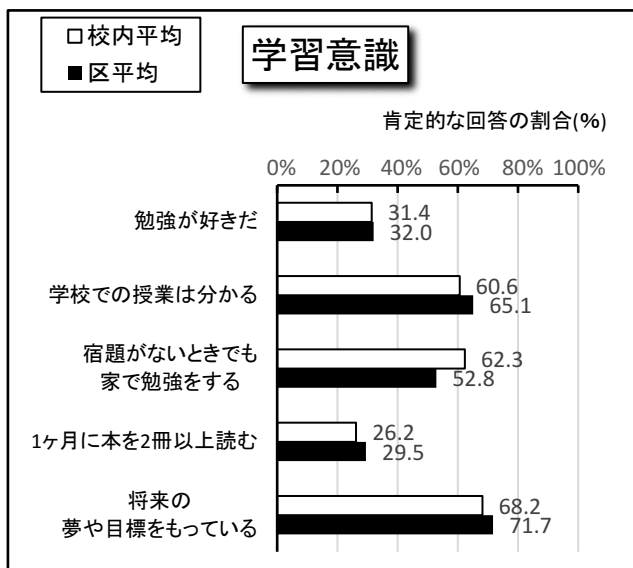
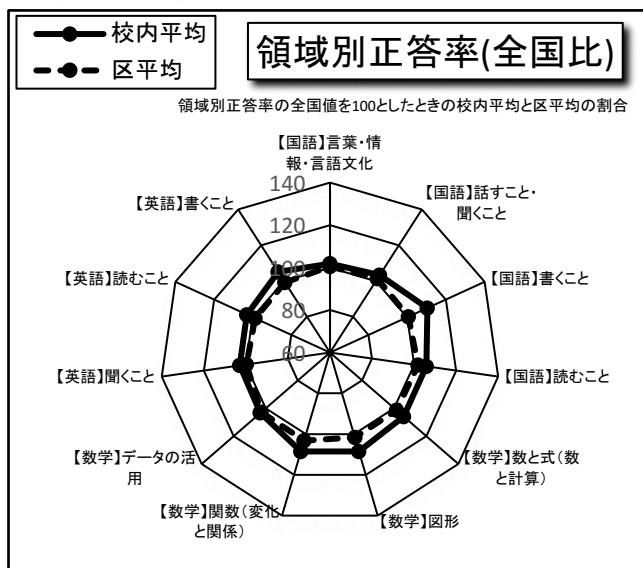
2 総合的な学習の時間「立志」における「書くこと」の実践

本校の特色である「立志」の時間に、グループ発表・個人発表において、プレゼンテーションだけではなく、原稿作りにも重点を置き、組織的に「書くこと」の指導に努める。また「立志」の調べ学習を活用し、情報収集能力向上を目指して様々な情報やデータからまとめる力を育成する。

3 授業の「まとめ」と「振り返り」の充実

「めあて」に正対した「まとめ」を適切に行い、学習の定着を図る。また各生徒がこの時間で何がわかったか、何がわからなかったかを振り返る時間を設ける。全体のまとめと個人の振り返りを通して学習調整力を育て、自ら学ぶ意欲を育て、家庭での自主学習につなげる。

江南中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	70.9	68.3	72.0	70.0	68.0	84.0	88.6	75.6	67.4	55.3	61.7	63.8
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	74.0	71.3	68.0	77.1	89.6	83.3	84.4	71.1	64.4	63.2	56.1	57.9
平均正答率(R7)	70.1	62.5	69.6	64.4	63.5	88.7	79.9	65.8	61.5	67.1	58.2	64.7
平均正答率(R6)	71.1	58.1	64.8	65.9	75.7	88.0	75.4	54.8	60.3	72.2	44.8	56.1

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

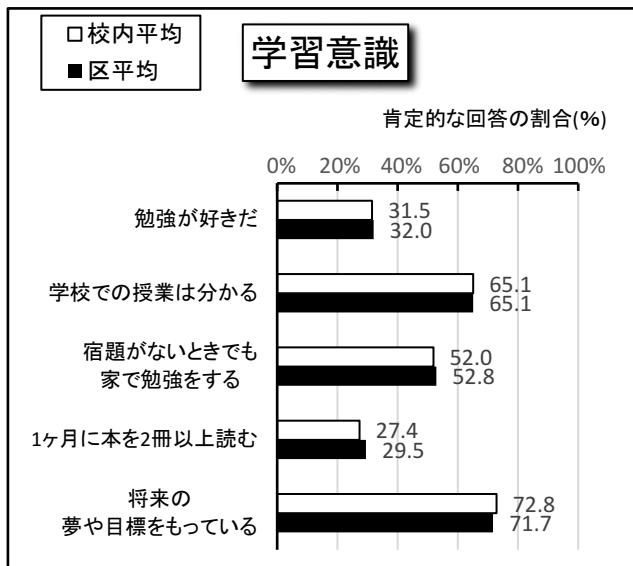
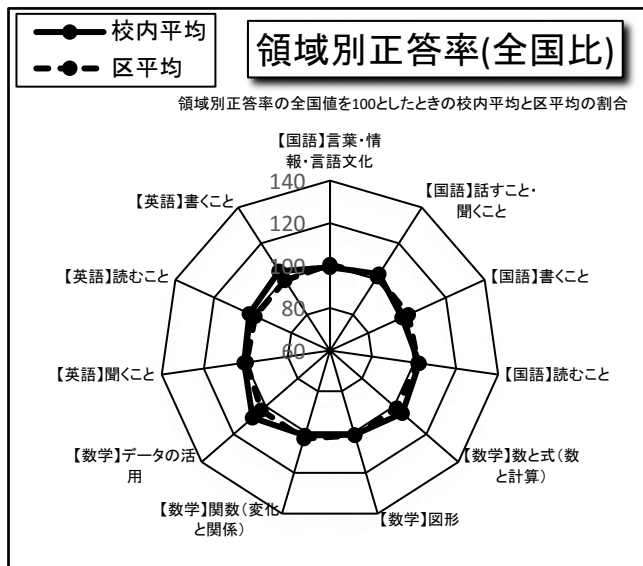
「学習定着度調査」分析結果

- 国語：全領域とも、区平均、全国値を上回り、特に「書くこと」の正答率の高さが目立つ。しかし、前年度に比べて3年生の通過率が(2年時比)30ポイント近く下回っている。特に「言葉・情報・言語文化」の校内正答率は全国値並であるが、他の分野と比べて最も改善すべき分野であると考えられる。漢字・語句・表現の知識と読解の力の定着など、きめ細やかな授業や補充学習などで改善を図りたい。
- 数学：全領域で、区平均と全国値を概ね上回っている。特に「図形」の正答率がやや高くなっている。平均正答率も各学年で目標値を大きく上回っている。一方で「データの活用」について改善の余地がある。また、現1年生の通過率が前年度を下回っているため、基礎の定着から確認して改善を図りたい。
- 英語：全領域とも、区平均、全国値を概ね上回り、通過率も分野別では「読むこと」「書くこと」のポイントがやや高めであるが、「聞くこと」は改善の余地がある。通過率は前年度の同学年比で全ての学年で1～6ポイントの向上が見られる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝読書…毎朝10分間の読書活動に取り組んでいる。その中の言葉を記録することで、語彙力の向上を図っている。また、その言葉を使うことで言語活動の充実に生かしていく。
- 放課後補充教室…昨年度から、全校生徒が25分間の補充教室に毎日取り組んでいる。A I ドリルを活用し、学習、テストを実施し、つまずきのある生徒には、より丁寧な指導を行う。また、異学年交流を行うことで、学習への意欲を高めていく。
- サマースクール…7月までのつまずきを解消するため、少人数指導での、補充学習を行う。1年生には、夏季勉強合宿(通所型)も実施する。また、8月末に夏季休業中の課題が終了していない生徒に、その課題を取り組ませることで、9月からのスムーズな登校を促す。
- 家庭学習…本校独自の家庭学習ノートを使い、家庭で、その日の授業で習ったことをすぐに復習する習慣を身につけさせる。担任が点検し、指導を行う。
- I C Tの活用…大型モニターやタブレットなどを使うことで、わかる授業を実施する。また、生徒自身に使用させることで、主体的に学習に取り組む態度を養う。

江北桜中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	68.9	65.5	69.8	64.6	66.9	81.9	78.5	66.1	62.8	63.2	63.2	63.2
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	71.9	66.1	63.9	66.9	72.3	83.1	84.5	75.5	53.2	65.8	50.8	52.9
平均正答率(R7)	68.1	60.3	68.6	61.3	60.4	88.1	74.0	60.2	61.9	69.4	60.4	61.7
平均正答率(R6)	69.4	56.1	65.2	62.8	67.8	88.0	73.9	57.5	55.9	72.5	41.1	58.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【共通】

平均正答率を学年別に見ると、2年生と3年生は全教科で区平均を上回った。正答率を単元別に見ると、特に3年生では各教科3～5つの単元で区平均を5ポイント以上上回った。中学校での学習を通して、学年が上がるにつれて成果が表れている点が良い結果であった。

【国語】

・どの学年も漢字の読み書きの力が不十分。文章を読む力は学年を追うごとに伸びている。

【数学】

・2年生・3年生は、データの活用能力や方程式を解く力が高い。
・1年生は、式の基本は身につけているが、図形分野の力はまだ不十分である。

【英語】

・1年生は、区の平均正答率をわずかに下回ったが、どの領域も偏りなく平均的である。
・2年生は、英文記述の能力が特に高く、3年生は、聞き取り・読み取りの能力が特に高い。

学校による学力向上への主な取り組み

○学習コンテスト(国語・数学・英語)の実施

年間3回(漢字、計算、英単語)のコンテストを実施。当日だけでなく、事前の取り組みと事後の補充学習をしっかりと行うことで、全員の基礎学力向上を図っている。

○朝のベーシックタイムと放課後補充教室

通常は、朝の読書活動、放課後は5教科の補充教室を実施している。定期考査や学習コンテストの時期は、それに合わせた学習を計画し、全学年共通して取り組んでいる。

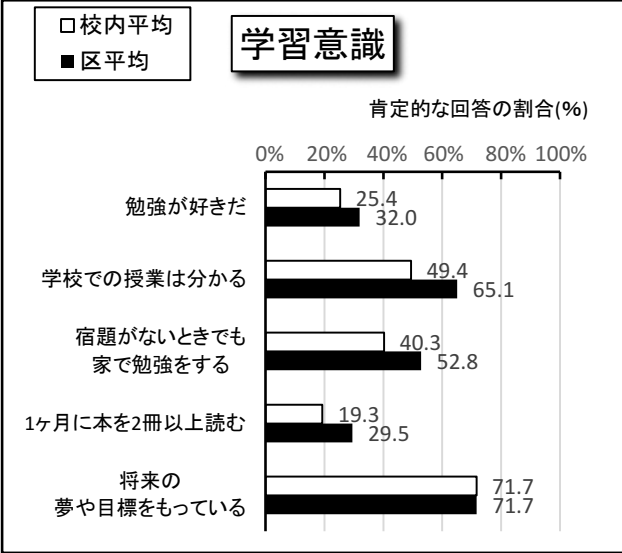
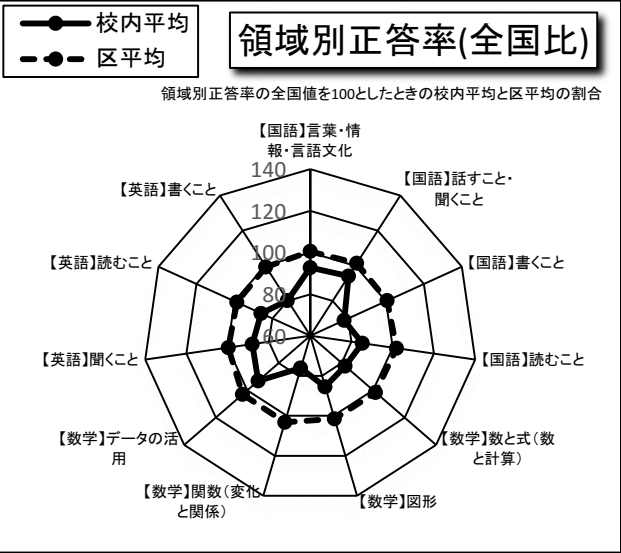
○家庭学習の充実

家庭学習ノートを通して、生徒自身が何を勉強するか決めて家庭学習に取り組んでいる。ノートは教員が毎日点検し、学習状況を把握したり、良い取り組みを紹介したりしている。

○学級委員会・学習委員会を中心とした取組

「初志貫徹キャンペーン」「量より質キャンペーン」などの期間を設け、点検や放送での呼びかけを行ったり、集会で上級生からアドバイスを語ったり、自発的に取り組んでいる。

鹿浜菜の花中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	55.4	48.3	48.1	65.0	66.7	84.6	60.3	40.0	26.2	40.7	38.7	35.2
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	59.7	49.1	45.5	61.6	62.3	63.0	62.8	48.1	33.6	54.4	35.7	38.6
平均正答率(R7)	61.3	49.2	53.6	62.1	61.4	87.7	63.6	42.1	41.1	58.0	43.1	45.5
平均正答率(R6)	61.4	45.7	54.3	56.0	62.2	80.0	61.5	41.0	44.3	67.3	31.0	47.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]
◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

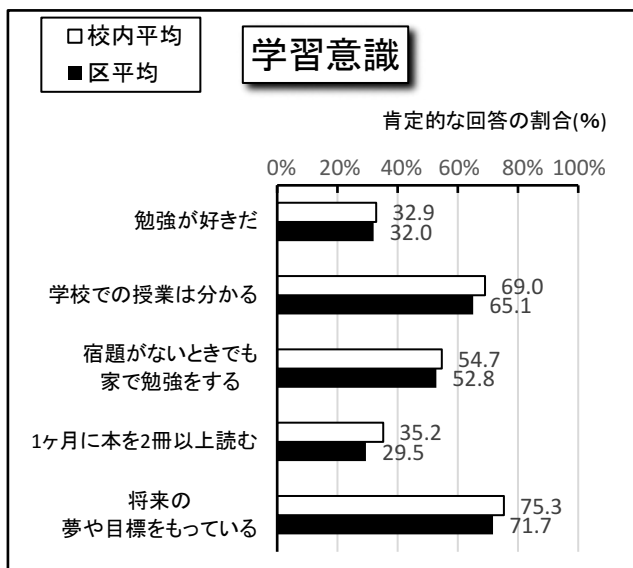
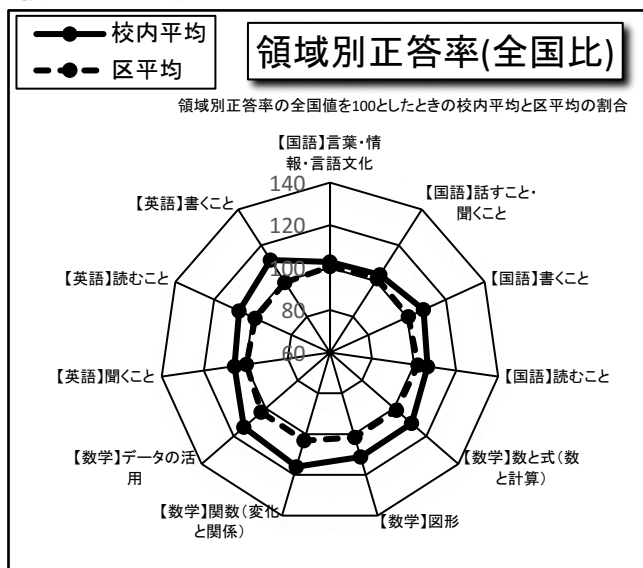
「学習定着度調査」分析結果

- 【国語】
- ・昨年度に比べ平均正答率が1・2年生は上回っているが、3年生は大きく下回る結果となった。集中して丁寧に文章を読む読解力が足りないと思われる。領域別正答率では、書くこと・読むことの正答率(全国比)が特に低い値である。
- 【数学】
- ・昨年度に比べ通過率が1・3年生は上回っているが、2年生は下回っており、課題となっている。2・3年生の平均正答率が、目標値と比べて7～8ポイント低い値となっており、課題となっている。
- 【英語】
- ・昨年度に比べ平均正答率が1年生は上回っているが、2・3年生は下回る結果となっており、課題となっている。身近な内容の聞き取りは、全国値との差が大きい。領域的正答率では、特に書くことの力が弱い。英文の記述やその活用、構成する力に課題がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 【国語】
- ・漢字コンテスト、こまめな漢字テストなどを通して漢字を書く力を養成する。
 - ・朝読書、図書館活用などをおして、読む力や文章への興味・関心を喚起する。
- 【数学】
- ・学習コンテストなどの取り組みを通して、特に入試レベルの計算問題が確実にできるよう、学力の向上に努める。
 - ・授業時や鹿浜菜の花タイムにおいて、AIとドリルを積極的に活用し、生徒が意欲的に学習を進められるように工夫する。
- 【英語】
- ・視聴覚教材を使用し、興味関心をひく授業を心がける。
 - ・授業や休み時間等に教員やALTに質問できる雰囲気をつくる。
 - ・朝学習や菜の花タイムで、ドリル学習を行い基礎的な英語力向上に努める。

新田中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	72.7	75.2	76.3	75.5	76.1	87.3	82.4	77.0	62.4	60.1	72.4	79.8
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	76.9	73.5	80.6	78.8	79.3	89.4	82.4	78.8	75.6	69.6	62.6	76.6
平均正答率(R7)	71.0	65.8	72.4	68.0	68.0	91.1	75.7	66.2	59.7	69.0	63.1	73.7
平均正答率(R6)	70.6	60.1	72.7	65.3	70.1	91.0	73.1	58.5	64.6	73.4	51.1	69.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

正答率は全学年全教科区平均を超えているが、通過率については昨年度を超えたのは数学(+1.7)のみで、英語・国語は下回った。学年別で昨年と比較し通過率が上がったのは3年生の数学(+9.8)・英語(+3.2)。それ以外の学年・教科別通過率は昨年並か下降傾向。特に1年生は英語の達成率(87.3%)は全国平均(87.6%)を0.3ポイント下回っている。例年、国語「話すこと・聞くこと」「言葉・情報・言語文化」については区平均点どまりであり、効果的な指導に向けた工夫・改善が課題である。

・意識調査「勉強は大切だ」「よい成績がとれるよう、勉強したい」「努力すれば、自分もたいていのはできると思う」の質問項目では全学年が肯定的回答をしており、A層D層の差が少ない。一方、「学校の授業は楽しい」「授業で学習したことを振り返る活動を通じて、学習内容に対する興味や関心が高まったり、広げたりすることができている」の質問項目では、どの学年もA層とD層の差が大きいが、全体的に2年生はD層も含め、学びの基礎力にて肯定的回答をしている生徒が多い。

学校による学力向上への主な取り組み

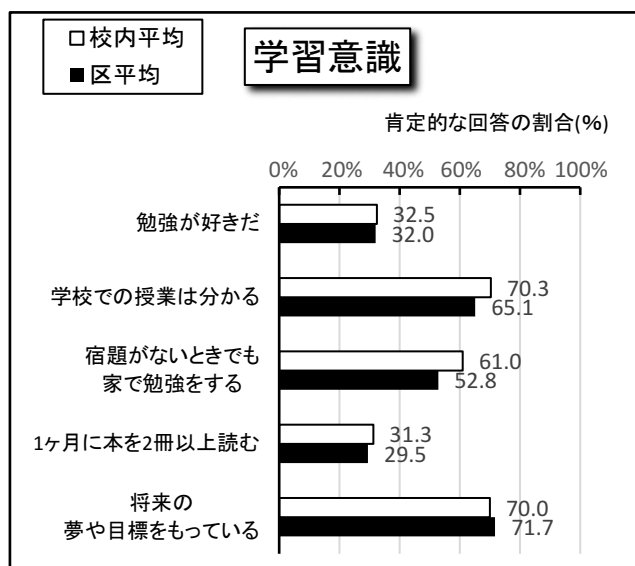
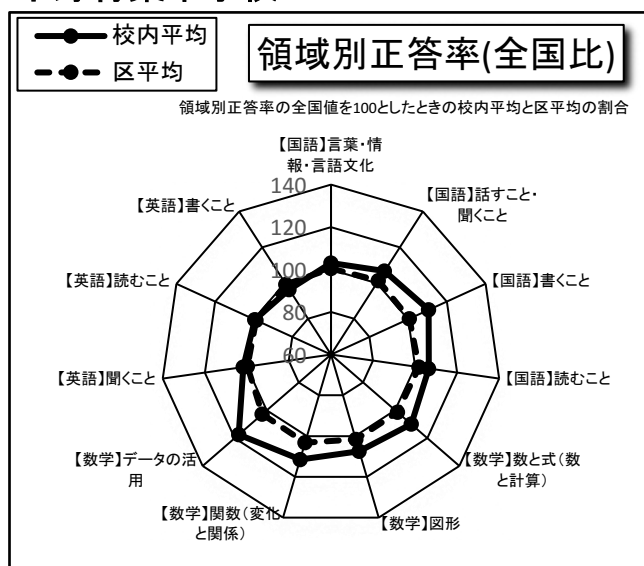
【小中一貫校の特性を活かした取り組み】児童生徒(5～9年生)が一斉に定期考査や教科コンテストに取り組むことで、教科指導の一貫性を図り、学年を超えた学びのつながりと基礎・応用力の定着を促進している。

【放課後補充教室】毎週火・木の放課後に学力C層・D層にあたる生徒を中心に学習指導を行っている。学習コンテストのある週は、全員参加で演習に取り組んでいる。

【サマースクール】夏までの学習のつまずきを解消するため、少人数による補充教室を実施している。3年生は基礎・発展コースに分け、都立入試対策も実施。A Iドリルを適宜活用し、個に応じた指導を行っている。

【ICT利活用の主体的な学びの促進】生徒の興味・関心や能力・特性に応じて、子どもが自己調整して学ぶことができるようICTを活用する。教科の特性に応じたデジタル教材やアプリを用いて学習に取り組むことで、主体的に学ぶ力の向上を図っている。

千寿青葉中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	75.7	73.5	66.6	83.3	79.3	88.7	79.5	72.4	54.3	63.0	67.7	52.8
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	75.5	69.5	63.3	73.9	78.3	84.8	84.5	76.7	50.4	67.5	51.3	52.1
平均正答率(R7)	71.4	65.0	66.5	69.9	70.1	91.8	74.3	64.7	55.7	70.2	58.7	58.5
平均正答率(R6)	70.2	58.6	64.7	63.6	72.1	90.1	73.4	57.8	54.0	74.4	42.2	57.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

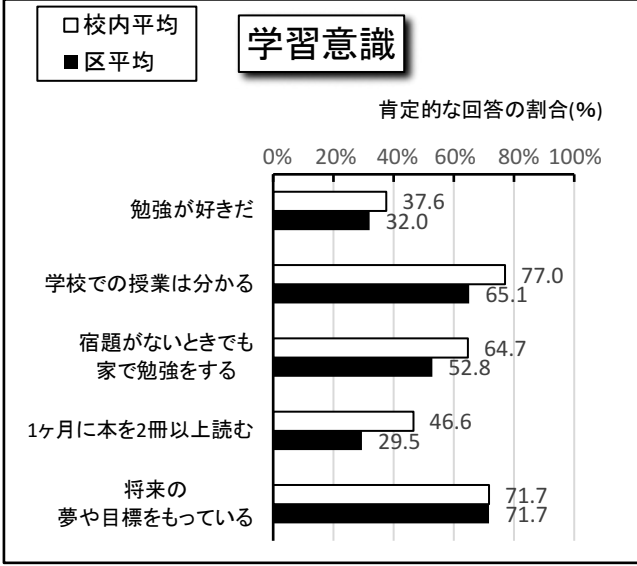
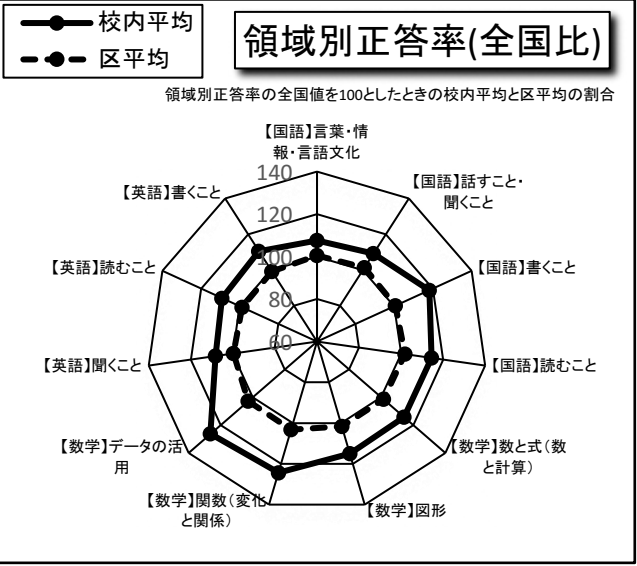
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の正答率は昨年度と比較して、国語で1.2ポイント、数学で6.4ポイント、英語で1.8ポイント上がった。全国値と比較すると、国語と数学において上回った。
- ・学校全体の通過率は、一番高かったのが国語で75.7%、次いで数学が73.5%、英語が66.6%であった。
- ・英語は、領域別正答率から特に「読むこと」「書くこと」を高める必要があると思われる。
- ・学習意識に関しては、「学校での授業は分かる」が70.3%に対して、「勉強が好きだ」という生徒は32.5%となっている。学習することの意義を理解させ、興味・関心を高めさせる工夫や授業改善を行い、学んでいくことの楽しさを伝えていきたい。また、「将来の夢や目標をもっている」が70.0%と区平均を下回った。3年間を見通した計画的な進路学習やゲストティーチャーを招いたキャリア教育を強化したい。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・数学ではティームティーチング、英語は習熟度を考慮した少人数授業を展開し、個に応じた指導を充実させる。
- ・A S T (青葉・スペシャル・タイム) の実施
今年度も、A S Tの時間を20分間確保し、取り組んでいる。A S Tは放課後に全員が自学自習に取り組む。学習が定着しない生徒には補充的な学習の時間とすることもある。
- ・夏季休業期間中のサマースクール(補充教室)では数学と英語に特化した授業を行う。数学科と英語科が内容を検討して授業を行い、各学年教員全員が支援を行う。また、今年度は2年生で理科の補充も行う。
- ・年間3回の学習コンクールを実施し、生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。
- ・A S Tを中心に、A Iドリルを活用した学習を行う。
- ・定期考査2週間前を家庭学習定着期間として、家庭での学習状況を確認する。

千寿桜堤中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	81.3	79.1	79.3	85.1	88.2	90.1	88.1	78.0	79.3	68.9	69.2	66.2
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	80.1	78.6	76.2	84.4	90.0	91.9	87.0	76.3	60.4	69.5	69.0	74.0
平均正答率(R7)	75.0	69.9	74.1	71.5	76.7	92.3	80.6	68.3	70.7	72.7	62.4	64.3
平均正答率(R6)	73.0	63.2	70.5	69.8	79.8	92.5	74.0	55.9	58.2	75.6	51.1	67.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

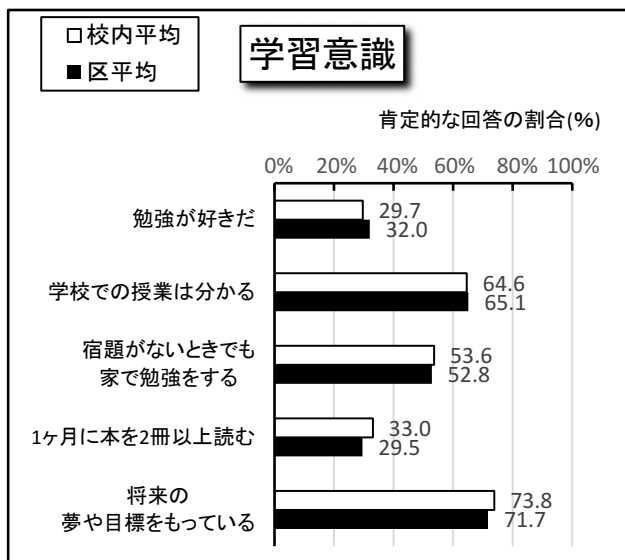
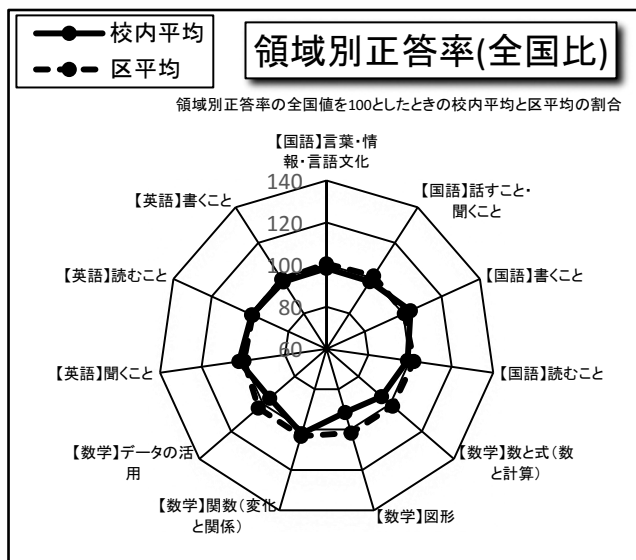
「学習定着度調査」分析結果

- どの学年においても、すべての教科において正答率・通過率が区平均を上回っており、本校の学習定着に向けた取り組みの成果が表れている。また、学習意識についても概ね区平均を上回っており、一定の成果が見られる。特に「学校での授業が分かる」は、昨年度と比べて+6.9ポイントと大きく向上している。一方で、「勉強が好きだ」は昨年度と比べて-1.9ポイントと低下しており、今後の課題である。
- 【国語】「書くこと」や「説明的な文章を読むこと」に対して苦手意識を持つ生徒が一部見られる。基礎的な文章をしっかりと書ける力を育成するための指導の充実が課題である。
- 【数学】「数と式」「関数」「データの活用」の分野においては、昨年度と比べて学力の向上が見られる。一方で、「図形」領域については学習内容の定着が不十分であり、指導の工夫と改善を図る。
- 【英語】「聞き取り」や「文法」の分野においては、一部の生徒に未定着の傾向が見られる。生徒の理解度に応じた個別の指導を行い、確実な定着を図ることが課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 授業の相互参観や目標達成キャンペーンを通して、「授業が分かる」「家庭で勉強する」生徒の増加を図っている。
- 国語の取り組みとして、語彙・文法・漢字などの学習場面で、A Iドリルを活用し基礎学力の定着を図るとともに、適宜小テストを実施し、知識の定着を図る。また、基礎力の定着のみならず、習熟度に応じて発展的な課題に取り組ませることで「応用力」をつけさせる。
- 数学の取り組みとして、「思考・判断・表現」の単元については、習熟度別少人数数学級指導やA Iドリルを活用して、個々に定着を図る。特に未定着の生徒が多い「活用」については、授業の中で習熟度に応じてグループで取り組む機会をつくり定着を図る。
- 英語の取り組みとして、スペリングコンテスト・単元テストなどの小テストを行うことで、「知識・技能」の定着を図る。また、A L T、T G G、留学生交流会などの体験的な授業を通して、表現力や思考力を身につけさせるとともに、英語に対する興味・関心をもたせる。また、個々の生徒にはA Iドリルを活用しながら、英語の基礎・基本の定着を図る。

竹の塚中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	66.7	63.0	67.3	73.0	73.0	91.7	63.6	54.5	45.5	63.2	60.5	63.2
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	68.9	68.9	65.0	67.6	64.9	64.9	77.1	68.6	62.9	61.3	74.2	67.7
平均正答率(R7)	67.3	56.9	67.2	64.1	64.1	89.6	66.5	47.9	53.4	71.2	56.7	65.9
平均正答率(R6)	67.3	56.0	68.1	57.9	63.7	79.0	73.8	53.6	61.6	71.2	48.9	67.2

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)] の平均値)

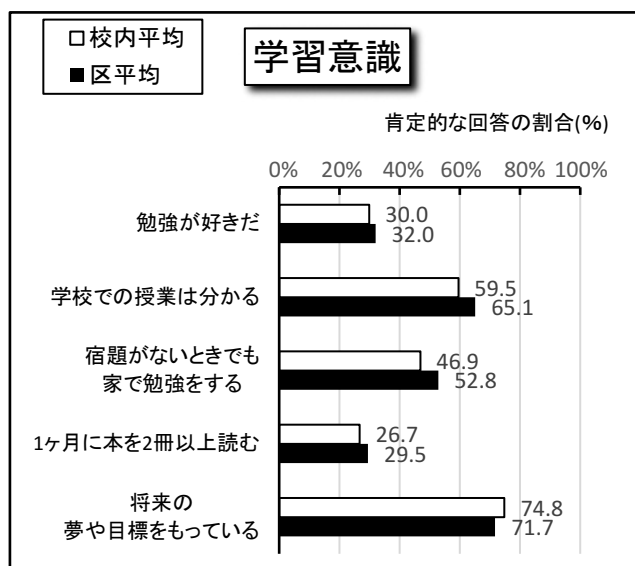
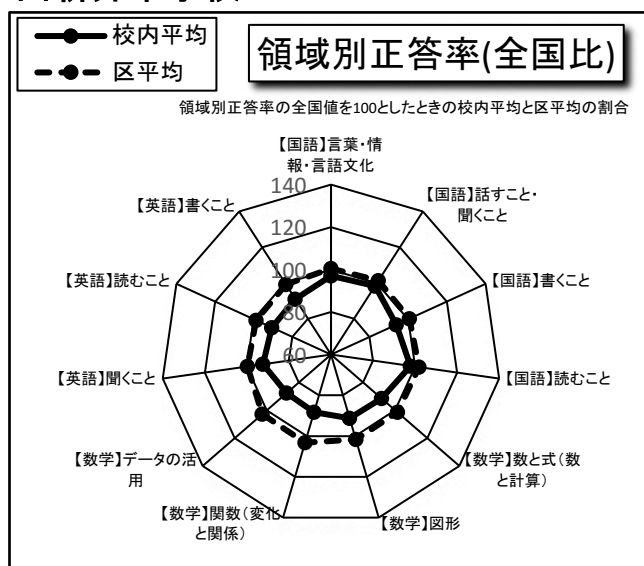
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、令和6年度に比べ国語は2.2ポイント、数学は5.9ポイント下回ったが英語は2.3ポイント上回った。意識調査の内容については、前向きな回答が増加傾向にあるものの、「勉強が好きだ」は昨年比-3ポイントと、学びに向かう力の育成が求められる。
- 国語: 平均正答率は、区の目標値を1年生で10.4ポイント、2年生で6.5ポイント、3年生で6.4ポイントとすべて上回った。朝読書で読書量が増えたことも要因の一つと思われる。
- 数学: 平均正答率は、区の目標値を1年生で9.2ポイント、3年生で6.4ポイント上回った。しかし2年生では2.9ポイント下回った。データの活用と方程式に課題があるため、A Iドリルや補充教室を活用する。
- 英語: 平均正答率は、区の目標値を1年生で8.8ポイント、2年生で2.1ポイント、3年生で12.8ポイント上回った。特に3年生では英文を書く力が向上した。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習【対象】全学年【読書】月～金の朝10分間【教科】定期考査前の自習、国語・数学・英語【内容】各自が用意した読書を行う。また、定期考査前やコンテスト前は、教科の学習を実施。
- 放課後補充教室【対象】全学年および指名された生徒【教科・時期】国語、数学、英語、月～金の放課後20分【指導体制】全教員【内容】A Iドリルを活用し、区学力調査や単元テストの結果を受け、各自の苦手分野の克服および基礎学力の定着を図る。
- 学習コンテスト【対象】全学年【教科・時期】国語(6月) 数学(9月) 英語(12月)【指導体制】教科を中心に全教員【内容】基礎学力の定着をめざして、国語は漢字、数学は計算、英語は単語と基本文を出題する。満点賞および3つの満点者を三冠賞として表彰する。
- サマースクール【対象】希望生徒【教科】国語、数学、英語、理科、社会の5教科を実施。【時期】夏季休業中の7月【指導体制】全教員【内容】基礎クラスと標準クラスの2クラスを基本とし(理科・社会は標準のみ) 今までの学習内容の復習および演習を行う。
- 家庭学習強化月間【対象】全学年【教科】国語、数学、英語、理科、社会【時期】定期考査を実施する月、年4回【指導体制】全教員【内容】家庭学習ノートやA Iドリルカードを提出し、各自の目標、取り組んだ時間、自己評価を記入させ、主体的に学びに向かう力を養う。

西新井中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	64.1	52.5	54.2	72.4	67.3	79.5	72.6	55.1	47.5	48.4	35.1	34.0
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	65.3	54.0	55.0	76.5	77.1	81.3	72.7	52.8	44.3	47.3	34.6	42.4
平均正答率(R7)	65.8	53.4	59.6	64.7	61.8	88.5	71.3	52.9	51.6	62.4	44.1	47.9
平均正答率(R6)	66.1	48.6	58.5	63.2	69.7	87.9	67.5	43.2	50.8	67.3	33.8	50.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

〔国語〕平均正答率は、区平均を1年生で0.6ポイント、2年生で3ポイント、3年生で3.8ポイント下回った。領域別では、「書くこと」の領域において課題がある。日ごろから、自分の考えを文章に表す活動や、まとまった文章を書く活動に取り組む必要があると考えられる。

〔数学〕平均正答率は、区平均を1年生で3.3ポイント、2年生で6.2ポイント、3年生で10.3ポイント下回った。基礎的・基本的な計算について重点的、継続的な取り組みが必要であると考えられる。

〔英語〕平均正答率は、区平均を1年生で1.2ポイント、2年生で5.7ポイント、3年生で10.4ポイント下回った。すべての領域において基礎・基本の定着が必要である。

〔学習意識〕5項目中、4項目が区平均を下回っているが、全項目で前年度より数値が上回っている。特に「学校での授業はわかる」は前年度より4.4ポイント上回った。今後もよりわかる授業を実施し、生徒の学習意欲を高め、進んで学習に取り組む態度を育成する必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

〔ICTの活用〕生徒一人ひとりのタブレット端末を活用した授業を行い、生徒の学習意欲を高め、自ら進んで学習に取り組む態度を育て、自主学習や復習の習慣化へとつなげる。

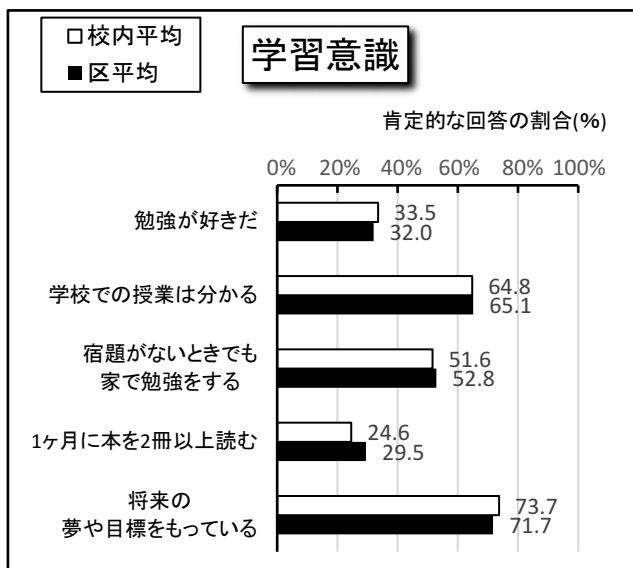
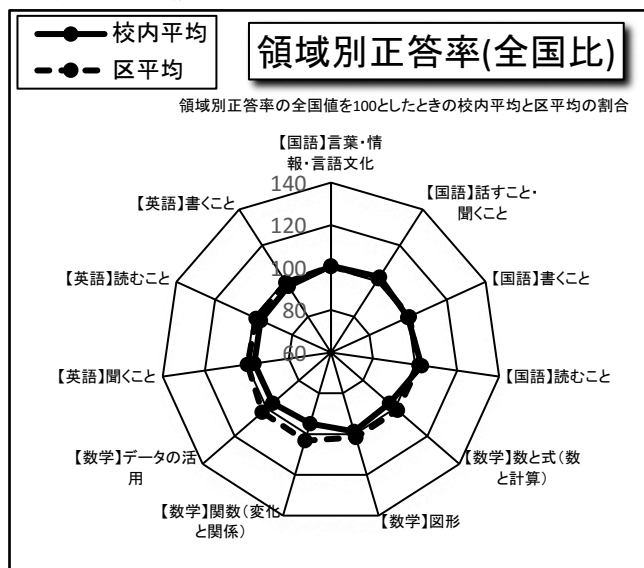
〔教室環境整備〕ユニバーサルデザインの教室環境を整備し、誰もが落ち着いて授業に取り組めるようにする。

〔朝学習・放課後補充教室・サマースクール〕朝学習では、プリント学習やA Iドリルを有効に活用して取り組む。また、4月と9月を朝読書月間とし、読書に親しむ態度を育成する。放課後補充教室では、学力の下位の生徒を対象に学習に取り組ませる(サマースクールも同用)。また、3教科で学習コンテストを実施し、コンテスト前は全員で放課後補充教室を行い、コンテスト後は合格点に達しなかった生徒を対象に補充教室を実施する。

〔家庭学習の充実〕日ごろの授業と関連させて家庭学習ノートやA Iドリルに取り組ませる。

〔授業改善プランの作成と活用〕夏休みを利用して3教科を中心に、学力調査の結果を分析し、学力向上のための取り組みについて検討していく。9月より、修正部分などを取り入れた朝学習や放課後補充教室を実施し、年度内に定着度の低い箇所の補習を行い定着を図る。

花畑中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	71.1	63.2	65.4	69.9	68.7	88.1	92.6	73.5	64.7	56.0	50.5	45.1
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	65.5	60.6	55.9	65.3	81.1	81.1	71.7	56.5	38.0	59.1	47.7	53.4
平均正答率(R7)	68.1	56.4	63.0	64.1	61.4	88.3	77.6	60.2	58.2	64.7	48.6	52.1
平均正答率(R6)	67.0	51.7	58.8	60.9	71.4	88.6	68.0	46.6	46.4	71.2	39.0	55.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

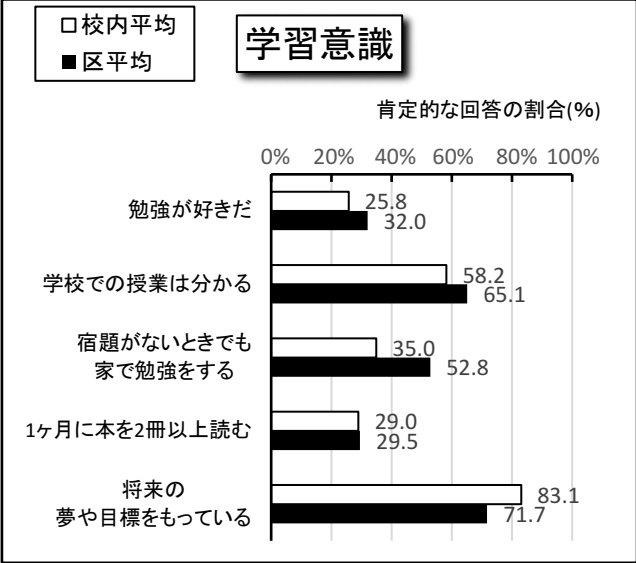
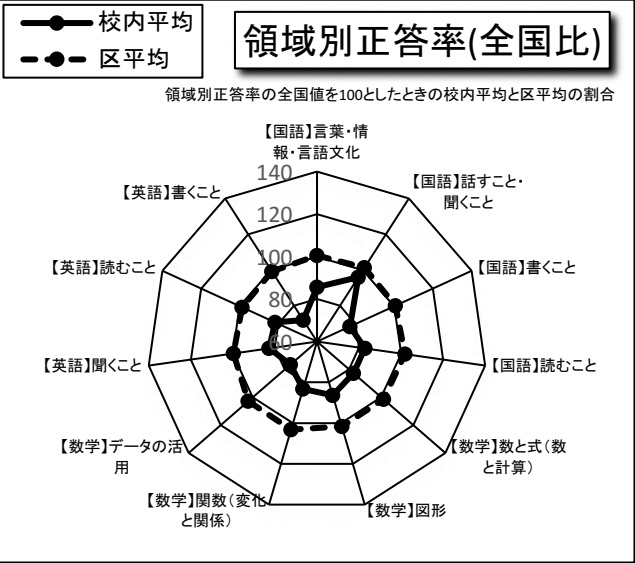
「学習定着度調査」分析結果

- 教科や領域、学年では、まだ区平均に達していないものもあるが、学校全体としては、昨年度よりも平均正答率・通過率ともに上昇し、学力定着に向けて継続的に取り組んできた成果が表れている。しかし、学習意識においては、昨年度との比較において、全ての項目で数ポイント低下しているため、教員の授業改善とともに、生徒が学校生活を通して達成感や成就感を味わえる取り組みを通して、生徒の自己実現を図っていくことが大切である。
- 国語は、どの領域においても区平均値に近い値ではあるが、「書くこと(記述)」に課題がある。知識・技能を定着させ、書く活動を通して思考力・表現力を高める必要がある。
- 数学は、「思考・判断・表現」「応用」「記述」に課題がみられる。基礎的な力の定着とともに授業の中で深く思考する時間を確保し、発展的な力を高めていくことが課題となる。
- 英語は、全領域で昨年度よりも向上し、継続的に授業の中で取り組んできた成果がうかがえる。ただ、全学年で「記述」に課題がある。適切な語彙と文法を身につけ、文章を書く練習を積み重ねることが重要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全教科を通して、授業のめあてを明確にし、活動を通して理解を深め、振り返りを通して定着を図っていく。また、学び方の指導を通して、達成感を味わえるように工夫し、「勉強が好きだ」「学校での授業はわかる」という生徒の割合を高める。
- ICT機器やクラウド環境を積極的に授業に取り入れることで、分かりやすい授業や生徒が主体的に学習に取り組める環境の構築、教員と生徒での情報共有の円滑化など、学習効果の向上や生徒の主体的な学びを促進する。
- 定期考査や学習コンテストなどの前には、全校生徒を対象に放課後学習を実施し、個に応じた学習、教え合いなど協働的な学習を実施し、学力の向上と学習習慣の確立、達成感の醸成を図る。
- 読書活動の充実や図書館活用の活性化を図るとともに、国語の授業だけでなく、全ての教科において「読む(読み取る)力、まとめる力、伝える力」の育成を目指した授業の改善に取り組む。

花畑北中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	49.5	45.4	41.2	56.7	76.7	83.3	58.8	35.3	26.5	33.3	27.3	18.2
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	44.2	45.7	40.0	45.9	51.4	62.2	58.1	53.1	25.0	30.6	33.3	30.6
平均正答率(R7)	58.7	48.2	48.4	61.2	63.7	86.7	62.3	39.4	38.9	52.7	41.1	36.5
平均正答率(R6)	55.2	43.5	52.5	49.0	58.2	80.7	59.1	39.9	42.2	58.1	30.2	43.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】領域別正答率では、「話すこと・聞くこと」は区平均に近いが、「書くこと」や心情や根拠に基づき「読むこと」に課題が見られる。授業や補習では自分の意見を根拠を踏まえて書く機会を増やし、「書く力」を身につけさせる。日頃から文章中の表現に着目し「読む力」を身につけさせる。

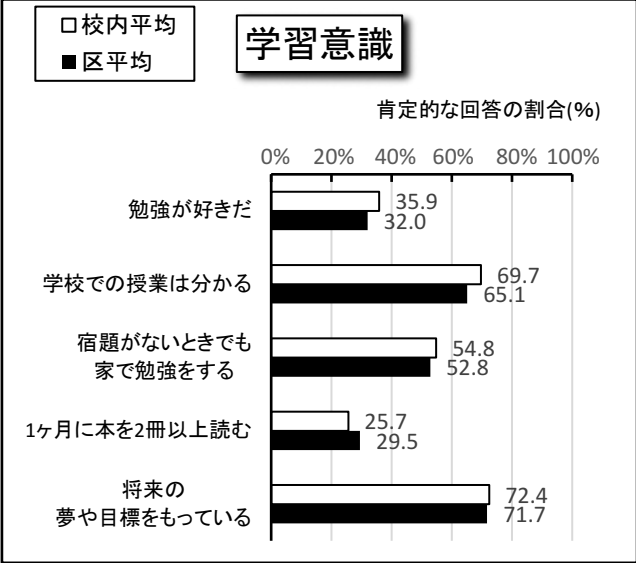
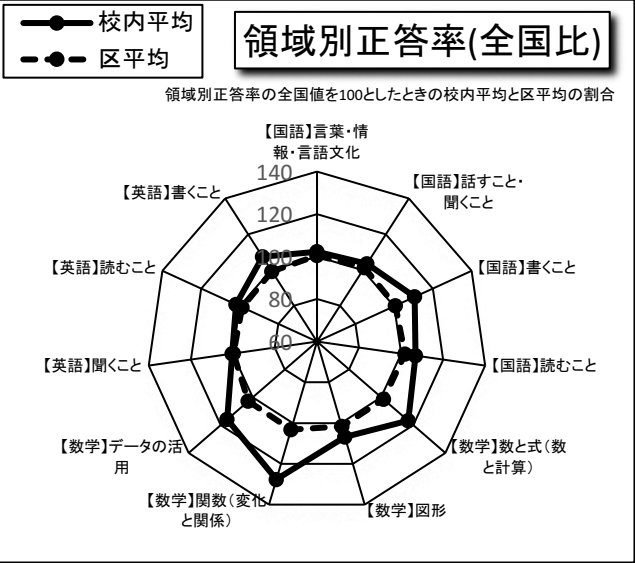
【数学】領域別正答率では、「データの活用」の正答率が区平均を大きく下回った。全体を通し、大問1・2の正答率が低く、教科書の例題が定着していない。また、確率や一次関数の利用など問題文を読んで理解し思考する問題や、図形の分野が課題である。基礎的な計算能力が身につけている生徒は引き続き伸ばしていく。

【英語】いずれの領域においても、区の平均を下回っている。特に「書くこと」において課題が見られる。英作文では、問題の意図を理解しながらも、語彙の不足や文法の活用に課題がある。今後はやりとりや発表の機会を増やし、A Iドリルやワークブックを活用し家庭学習の定着を図ることで、基本的な語彙力を伸ばしていきたい。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・授業に取り組む態度や決まりを全校で確認し、「わかる」「できる」授業を実施する。
- ・授業のねらいを明確にし、授業形態や発問の工夫をする。言語活動や話し合い活動を活発にし、生徒の主体性を伸ばす。
- ・スライドやA Iドリルなどの電子教材を効果的・効率的に活用し、抽象的な問題でも理解しやすい授業を展開する。
- ・A Iドリルを活用した家庭学習や補充教室、小テストを行い、定期考査前には質問教室を開く。
- ・夏休みにサマースクールを5教科、全校で実施し、基礎基本の徹底を図る。
- ・年に2回、英語と数学で家庭学習週間を実施し、粘り強く課題に取り組む態度を育成する。
- ・全教科で図書館を活用した授業を実践し、活字や文章への苦手意識を減らす。
- ・定期考査前に、生徒に目標を立てさせ、実施後には反省を行える冊子を配布し活用する。
- ・年1～3回の到達度テストを全学年で実施し、定着状況を確認し今後の学習に役立てる。

花保中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	73.9	76.1	71.0	73.3	75.6	92.3	86.8	75.8	63.7	60.9	77.0	56.3
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	80.4	81.4	65.2	83.9	86.0	83.9	78.3	87.8	55.4	78.7	71.3	55.3
平均正答率(R7)	70.8	68.4	68.4	66.0	66.4	92.2	78.4	70.4	62.3	67.8	68.5	59.2
平均正答率(R6)	72.6	64.6	64.8	67.6	76.0	89.5	72.3	63.3	54.8	77.8	53.5	58.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

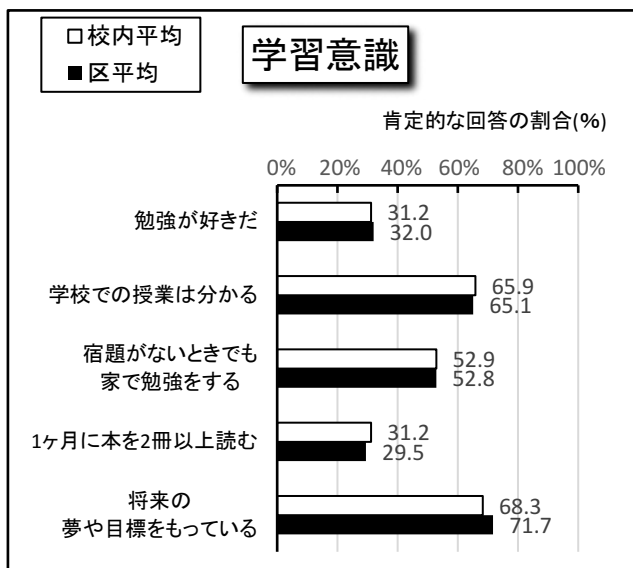
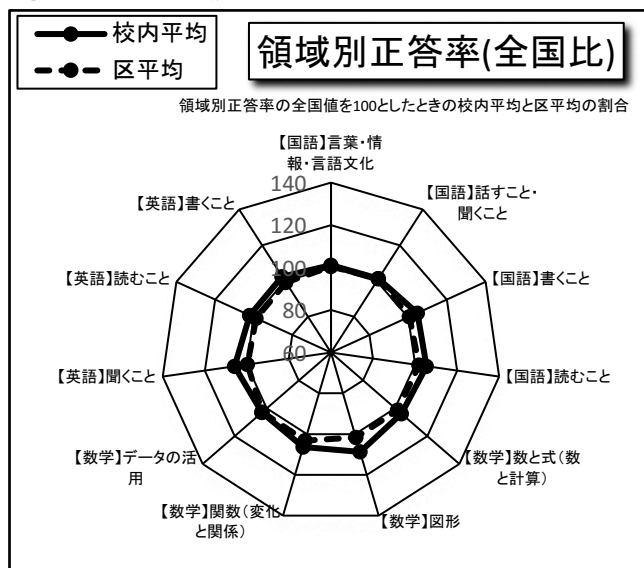
「学習定着度調査」分析結果

- ・1年生の通過率を昨年度の1年生と比べると、国語は－10.6ポイント、数学は－10.4ポイント、英語は＋8.4ポイントである。
- ・2年生の通過率を昨年度の2年生と比べると、国語は＋8.5ポイント、数学は－12ポイント、英語は＋8.3ポイントである。
- ・3年生の通過率を昨年度の3年生と比べると、国語は－17.8ポイント、数学は＋5.7ポイント、英語は＋1ポイントである。国語の減少幅がやや多いが、区平均と比べると＋5.1ポイントであり、減少幅がそのまま学力低下ではないと思われる。
- ・意識調査の「勉強が好きだ」の肯定的回答値が区平均を3.9ポイント、「学校での授業は分かる」の肯定的回答値が区平均を4.6ポイント、「宿題がないときでも家で勉強をする」の肯定的回答値が区平均を2ポイント上回り、そして「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答値が区平均を0.7ポイント上回り、一昨年から区平均を上回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・火曜日から金曜日に毎朝10分間の朝学習を、国数英の3教科で実施し（1教科2週間を1クール）、終了後は「朝学習まとめテスト」を行う。全員合格を目指し、順次追試を行う。
- ・読解力向上を目指しNIE（学校教育に新聞を活用）学習を年2回2週ずつ実施し、「読後まとめテスト」を行っている。
- ・国数英3教科での放課後補充教室を実施。朝学習まとめテストの不合格者を中心に基礎的事項の補習を実施。定期考査前に定期考査に向けた補習教室や質問教室を行う。
- ・読解力・表現力の向上の一環として、ビブリオバトルを行っている。各クラスで予選会を行い、その代表者が集まり、文化祭で決勝戦を行っている。
- ・ICTを活用し、朝学習で年間10週以上AIドリルに取り組む。また、各授業でもAIドリルを通常使用し、生徒一人ひとりの学力向上をめざす。
- ・生徒一人ひとりの主体的学習意欲の向上を目指し、自主学习ノートの毎日提出を実施、家庭学習の習慣化を図る。

東綾瀬中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	71.6	65.6	70.9	75.9	77.0	88.9	81.1	65.7	64.6	55.7	51.9	56.3
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	72.3	69.7	70.4	79.2	81.5	87.6	78.5	72.8	55.7	56.4	51.4	65.0
平均正答率(R7)	69.8	61.9	69.8	67.6	69.1	90.7	75.9	60.5	63.4	65.6	53.7	61.1
平均正答率(R6)	69.0	59.2	67.8	65.7	73.3	89.8	71.7	56.5	57.0	70.2	42.9	62.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】 R 7の通過率は、R 6の通過率と比べ、2年生は上回っているが、1・3年生は下回っている。どの学年も漢字や言葉の基礎的な事項の反復学習を行う中で、考えを自信をもって文章で表出する力をつけさせたい。そのためにもA Iドリルを活用して基礎的な学習事項の習得をめざすとともに、文章を書く機会を多く設け、主体的に学べるよう取り組む。

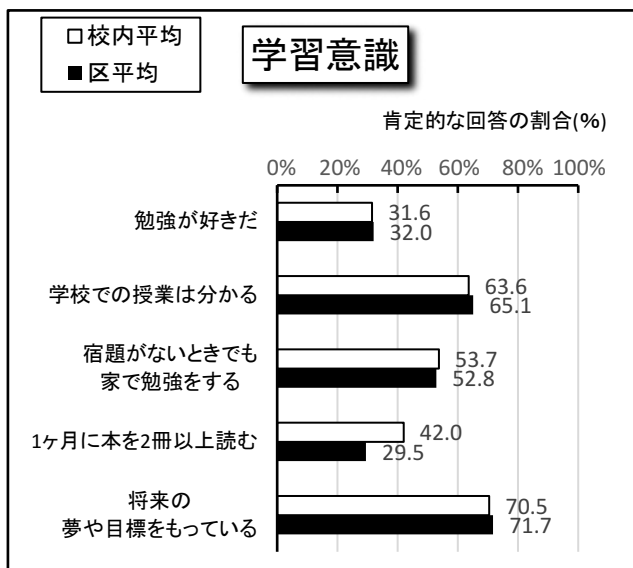
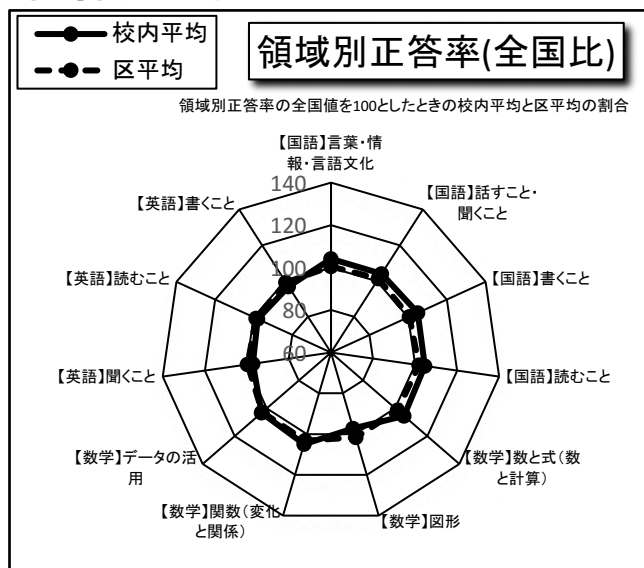
【数学】 R 7の通過率は、R 6と比べ3年生は上回っているが、1・2年生は下回っている。また、R 7の平均正答率は、1・2年生は区平均を上回っているが、3年生は下回っており、基礎・基本の定着が課題と考えられる。基礎・基本でのつまづきを解消するため、A Iドリルを活用し基礎問題や計算を継続的に取り組ませることで、基礎学力を確実に定着させていく。

【英語】 R 7の通過率は、1・2年生についてはR 6と比べて向上している。3年生は前年度よりも下回っている。また領域別では「聞く」「読む」よりも「書く」の達成率が低い傾向が見られる。日頃の授業において、話したことや聞き取ったことを書く活動を意識的に取り入れていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 1 P B S (ポジティブ行動支援)により心の安心・安全を確保し、学力向上の環境づくりをする。
- 2 生徒に「なぜ」を考えさせる問いを意識した授業の実施
- 3 A Iドリルタイム(週4日×15分)と授業内でのA Iドリルの活用
- 4 校内における相互授業観察週間の実施(年2回)
- 5 小中連携による授業研究と統一した授業実践
- 6 管理職・教科指導専門員による授業観察
- 7 夏季休業中の補充教室の実施(1年生は小学校教員と連携)

東島根中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	72.0	68.4	66.8	76.7	78.3	90.0	79.5	71.6	47.7	58.7	52.7	54.8
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	70.4	64.6	68.4	76.1	68.5	81.5	79.3	63.4	57.4	54.2	61.4	66.3
平均正答率(R7)	70.6	60.7	65.5	68.4	66.3	89.6	75.9	60.0	53.4	68.3	53.2	57.3
平均正答率(R6)	67.8	53.9	65.1	63.0	65.9	84.9	72.2	48.8	55.3	68.2	45.0	62.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

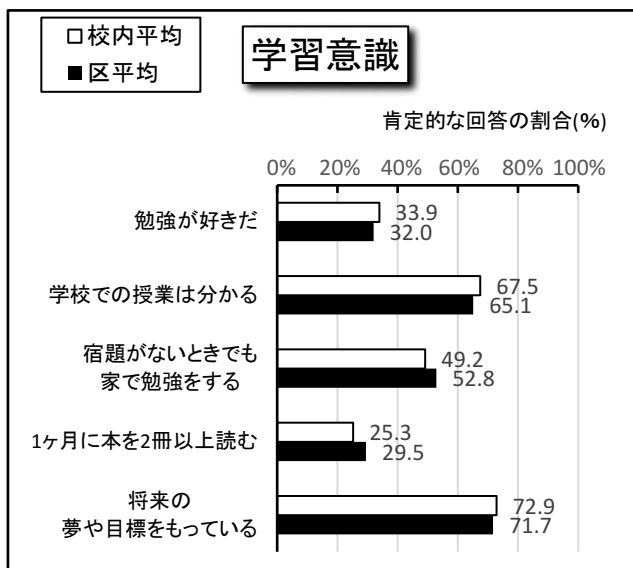
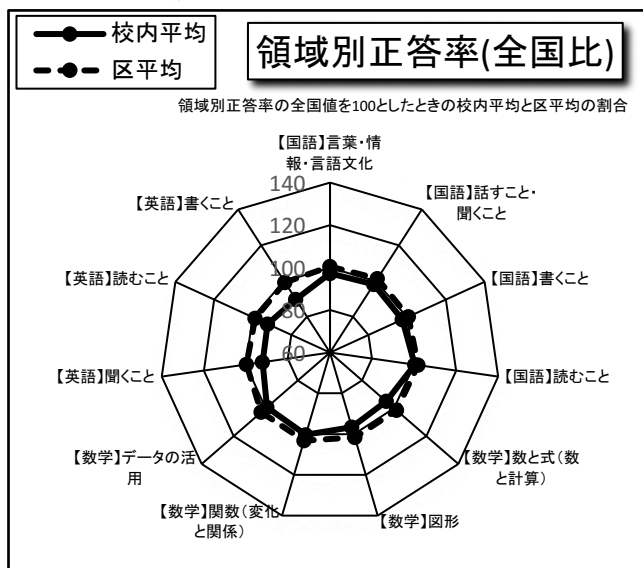
「学習定着度調査」分析結果

- 令和7年度の通過率は、令和6年度の結果と比べて、学校全体では国語で1.6ポイント、数学で3.8ポイント上回り、英語で1.6ポイント下回った。また、平均正答率は、国語で2.8ポイント、数学では6.8ポイント、英語では0.4ポイント上回った。
- 1年生の通過率については、すべての教科で令和6年度の結果を上回った。平均正答率は、国語で5.4ポイント、数学で0.4ポイント、英語で4.7ポイント上回った。
- 2年生の通過率については、英語は令和6年度を下回ったが、国語と数学は上回った。平均正答率は、国語で3.7ポイント、数学で11.2ポイント上回り、英語で1.9ポイント下回った。
- 3年生の通過率については、数学と英語は令和6年度を下回ったが、国語は上回った。平均正答率は、国語で0.1ポイント、数学で8.2ポイント上回り、英語で4.9ポイント下回った。
- 今回の分析結果から、1年生と2年生の平均正答率と通過率が上昇傾向にあり、3年生の平均正答率と通過率は下降傾向にある。領域別正答率では、国語がすべての領域で区平均を上回った。
- 学習意識では、「1ヶ月に本を2冊以上読む」割合が区平均を上回った。

学校による学力向上への主な取り組み

- 家庭学習の取り組みとして、授業の振り返り、目標をもって自主的に学習するために、毎日2ページ家庭学習ノートを活用し、できなかった内容の克服や重要ポイントの復習を図る。
- 朝補習として、木曜日以外の毎朝、20分間の学力補充教室を全学年で実施する。対象生徒を15人前後に絞り、プリント学習を中心とした授業の復習や演習を行う。
- 長期休業中の課題として、A Iドリルを有効活用する。また、長期休業中の学力補充教室への参加を呼びかけ、国語、数学、英語の3教科を中心に、プリントによる課題やA Iドリルを活用した補習を実施して、基礎学力の向上を図る。
- 国語、数学、英語、理科、社会の学習コンテストを年2回実施し、基礎学力の定着を図る。

渚江中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	68.5	62.7	53.1	62.2	60.6	71.3	83.7	68.6	48.1	54.7	56.9	40.9
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	71.2	69.0	59.3	73.0	79.9	74.6	83.7	72.9	44.6	54.6	47.5	50.8
平均正答率(R7)	67.5	56.9	58.5	58.9	57.4	84.3	75.7	60.4	51.3	65.5	51.8	51.3
平均正答率(R6)	67.7	57.5	63.1	62.9	70.4	85.1	71.7	51.2	50.3	71.0	42.1	55.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

「学校全体」の通過率を昨年度(R6)と比較すると、「国語－2.7ポイント、数学－6.3ポイント、英語－6.2ポイント」となり、すべての教科において昨年度を下回る結果であった。本校では、「B層・C層の学力向上およびD層の学習習慣の定着」をめざして、さらなる補充教室や家庭学習等の充実を図る必要がある。教科別には以下のように分析する。

【国語】平均正答率を区平均と比較すると「1年生－6.4ポイント、2年生＋1.4ポイント、3年生－0.7ポイント」という結果になった。領域別では「書くこと」の正答率が低く、自分の考えを文章化するのが苦手な生徒が多いため、単元末の振り返りや定期考査などを通じて書く活動の習慣化を図る指導を工夫する。

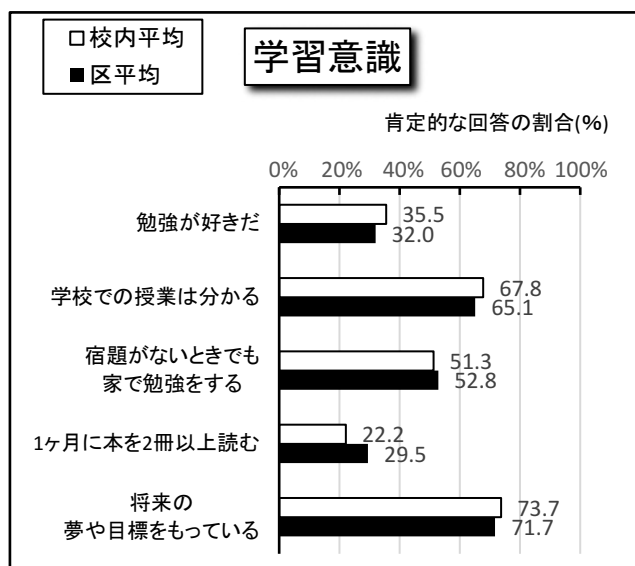
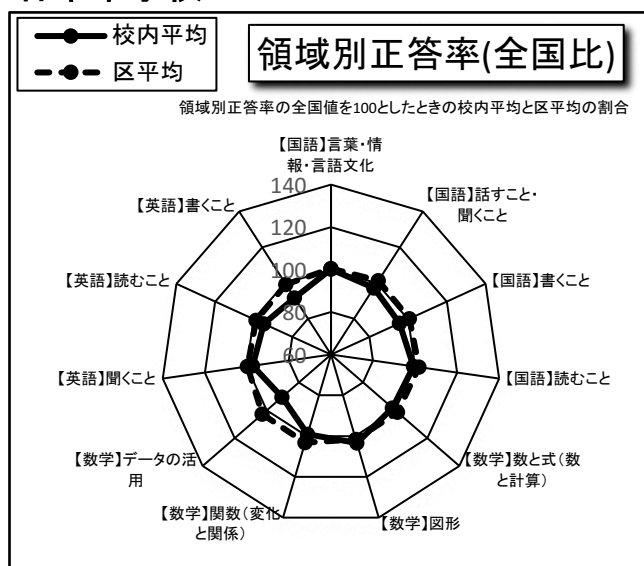
【数学】平均正答率を区平均と比較すると「1年生－7.7ポイント、2年生＋1.3ポイント、3年生－2.6ポイント」という結果になった。領域別では「関数」は概ね良好であるが、「数と式(数と計算)」・「図形」に課題が見られたため、個別指導を計画的に取り入れながら全体の底上げを図る必要がある。

【英語】平均正答率を区平均と比較すると、「1年生－5.4ポイント、2年生－6.0ポイント、3年生－7.0ポイント」という結果になった。領域別では「書くこと」、とくに整序問題や単語を記述する問題を苦手とする生徒が多い。生徒たちの強みはコミュニケーション能力の高さであり、それを生かした授業改善を行い、確かな語彙力や読解力の習得に繋げていきたい。

学校による学力向上への主な取り組み

- 年間を通して、A Iドリルを活用した放課後補充教室を5教科で実施する。
- 定期考査前の補充教室を5教科で実施し、自習室の開放も行う。
- 学習支援ボランティア(大学生)による『放課後学習教室』を開設し、学習支援を行う。
- 夏季休業中にサマースクールを7日間実施する。D層の学習習慣の定着をめざした指名制講座を3教科で開設し、A・B・C層の学力向上をめざした希望制講座を5教科で開設する。
- 読解力の向上をめざし、毎朝10分間、全校生徒に朝読書に取り組ませる。
- 校内で年2回学習指導案を全教員に配付し、公開授業を行う。
- 年3回生徒に授業診断アンケートを実施する。

谷中中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	69.0	60.6	60.1	74.6	73.9	84.1	80.9	60.3	51.5	51.8	47.9	45.1
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	67.7	56.7	61.4	77.9	71.4	80.0	71.3	54.7	40.7	53.3	43.8	65.0
平均正答率(R7)	67.1	57.6	61.7	64.6	65.2	89.4	73.0	56.7	52.9	63.7	50.2	53.3
平均正答率(R6)	66.2	52.1	62.8	63.0	67.3	87.2	67.3	46.8	48.2	68.5	40.8	62.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率】

- ・ 数学では「データの活用」が区平均を大きく下回っており、課題が明確である。
- ・ 国語「書くこと」、英語「書くこと」が区平均を下回っており、授業において「書くこと」に意識した取り組みが必要である。

【通過率】

- ・ 学校全体では全教科で60%を超えることができたものの、数学・英語において基礎・基本の定着に課題が見られる。
- ・ 1年生は、全教科で70%を超えているので、さらに力を伸ばす発展的な学習も必要である。
- ・ 2年生は、同一集団の経年変化で数学、英語が大きく低下しており、課題が顕著である。
- ・ 3年生は、同一集団の経年変化で昨年度課題であった英語が4.4ポイント増加した。

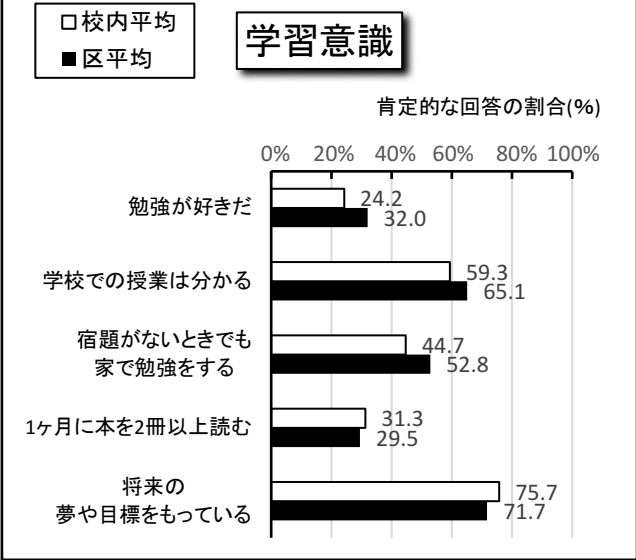
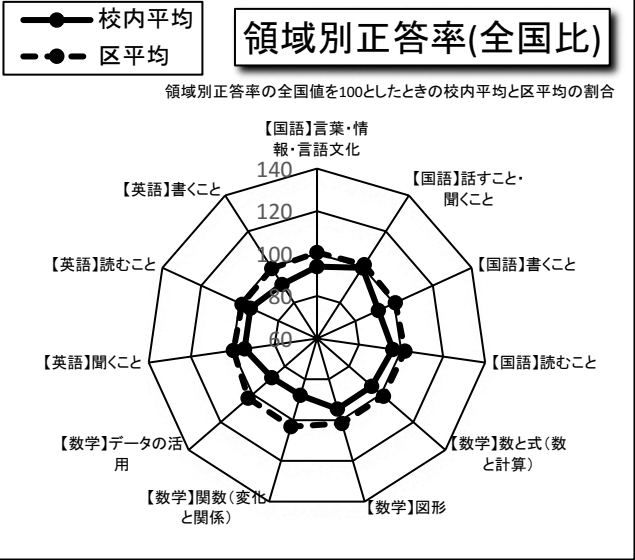
【学習意識】

- ・ 「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」において区平均を下回っており、自ら学習に向かう力を育成する必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・ 授業では足立スタンダードを軸として、自ら学習方法を選択できる複線型授業を展開し、学習者主体の学習をすることで、自ら学習に向かう力を育成する。
- ・ 数学、英語では少人数指導を展開し、生徒一人ひとりの学習機会を確保し、個に応じた指導の充実を図る。
- ・ 家庭学習にA Iドリルを活用し、朝学習、放課後補充教室と連動した取り組みをすることで継続した学習習慣を確立し、基礎学力の向上を図る。
- ・ 国語、数学、英語で学習コンテストを実施し、事前学習や特訓教室を充実させ、粘り強く学習に取り組む姿勢を育成する。
- ・ サマースクールにおいて、全学年で数学、英語の補充教室を設定し、全教員が参加することで個に応じた指導を展開し、基礎・基本の定着を図る。
- ・ 区調査結果のS P表分析を教科指導専門員とともにを行い、今後の学習指導に反映する。

六月中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	64.2	54.3	59.8	67.6	65.5	80.6	74.2	56.7	54.2	49.1	38.1	40.4
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	62.8	63.2	56.0	68.1	69.0	67.2	69.5	58.5	37.0	53.3	62.4	62.4
平均正答率(R7)	64.5	53.9	61.6	61.7	61.6	86.8	69.7	52.3	54.8	62.6	45.0	49.6
平均正答率(R6)	65.5	51.6	60.4	60.1	64.8	83.3	65.9	43.8	47.2	69.3	46.6	59.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- (1) 通過率…前年度と比べ、国語と英語の通過率が上昇したが、数学が大きく下回った。領域別正答率で分析すると、国語と英語の「書くこと」の領域、数学の「データの活用」「関数」の領域で区平均よりも大きく下回っている。また、学力層別に分析すると、上位層は90%近くの正答率を維持しており、基礎的な学力の定着は進んでいると言える。一方で、上位層との二極化の傾向があるため、層別のフォローアップが必要である。特に、記述式・短答式問題に特化した基礎練習を重点的に実施し、底上げを図る。
- (2) 学習意識…前年度と比べ、将来の夢や目標のための勉強意欲が向上した。「学びの基礎力」は、全学年を通して多くの項目で区平均を下回る結果であった。一方で、将来の夢や目標に向けての勉強意欲は向上しており、本校で推進しているキャリア教育の一定の成果が表れたと言える。また、平日に家庭学習を「ほとんどしない」と回答した生徒は31.1%であるため、補習や授業改善に向けた取り組みとともに、基礎的な学力定着に向けた家庭学習の習慣化を迅速に進める必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

【授業改善】「足立スタンダード」に沿って、「課題の把握→見通し→自力解決→まとめ」の学習過程に沿った問題解決的な授業を全教科で実践する。併せて、生徒一人ひとりの興味関心、学習状況に応じて生徒が学び方を選択・決定する複線型学習を全教科・領域で推進するとともに、学力層に応じた教員の支援を充実させることで、各層の学力の確実な定着を図る。

【放課後補充教室の工夫】基礎の見直しや個別最適な学びの仕組みの導入により、理解度の向上をめざす。特に、区学力調査や定期考査の結果を踏まえ、教員が補充教室対象生徒を選定し、生徒一人ひとりの苦手な領域に応じた類題に取り組ませる。

【家庭学習の習慣化と充実】デジタルを活用しながら生徒一人ひとりの学習定着度に応じた異なる家庭学習をさせるとともに、教員が家庭学習の状況や進捗を都度確認していく。

【土曜補充教室(ドテラ)】大学生の学習支援ボランティアを募り、定期考査前の土曜日を中心とした学習教室を年間で実施する。